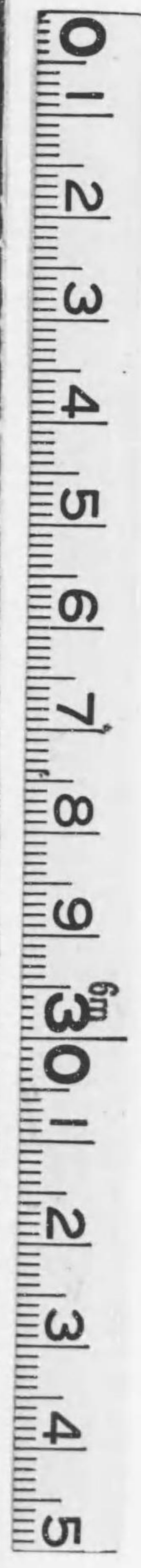
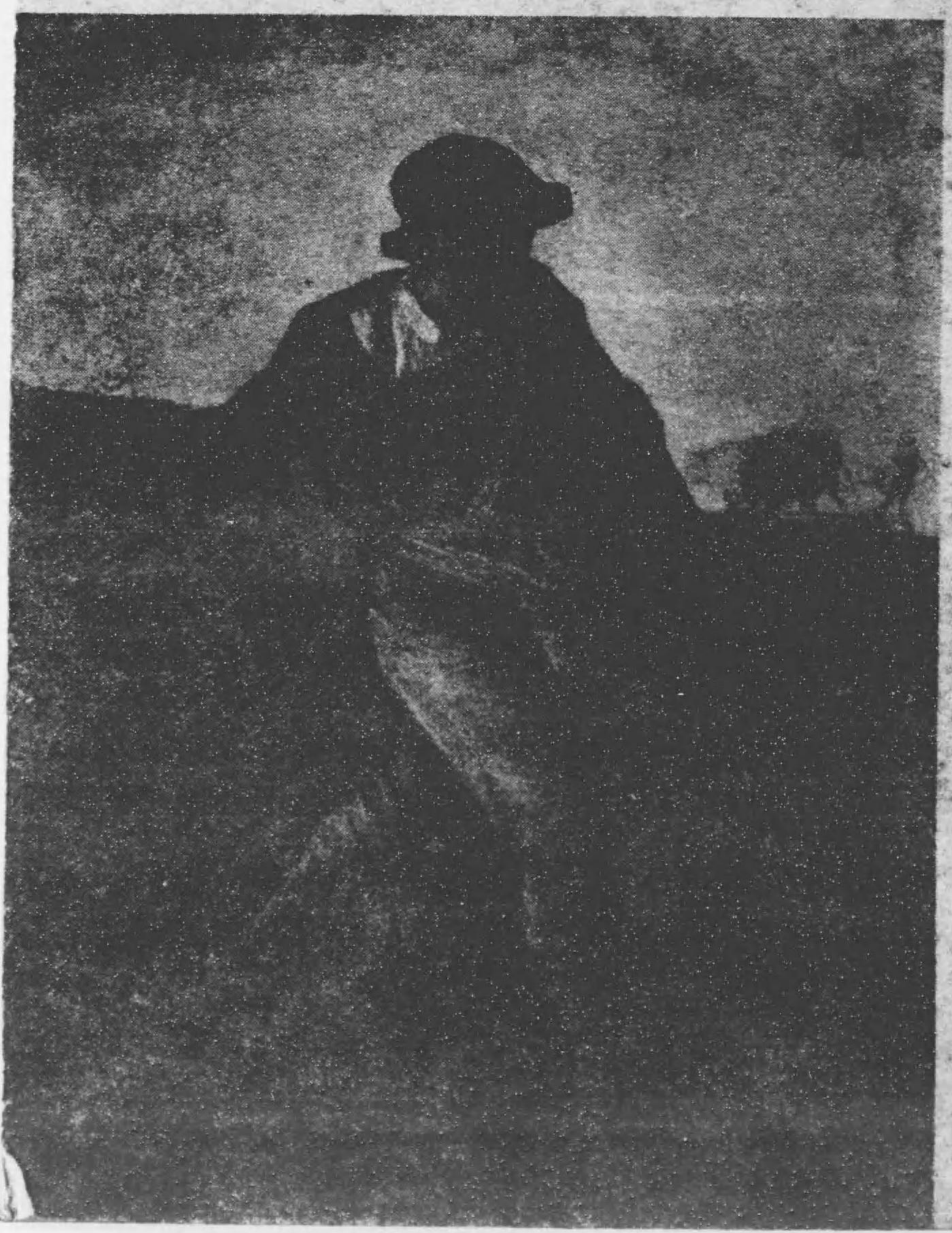


聖明教育書局
著編會

354
909

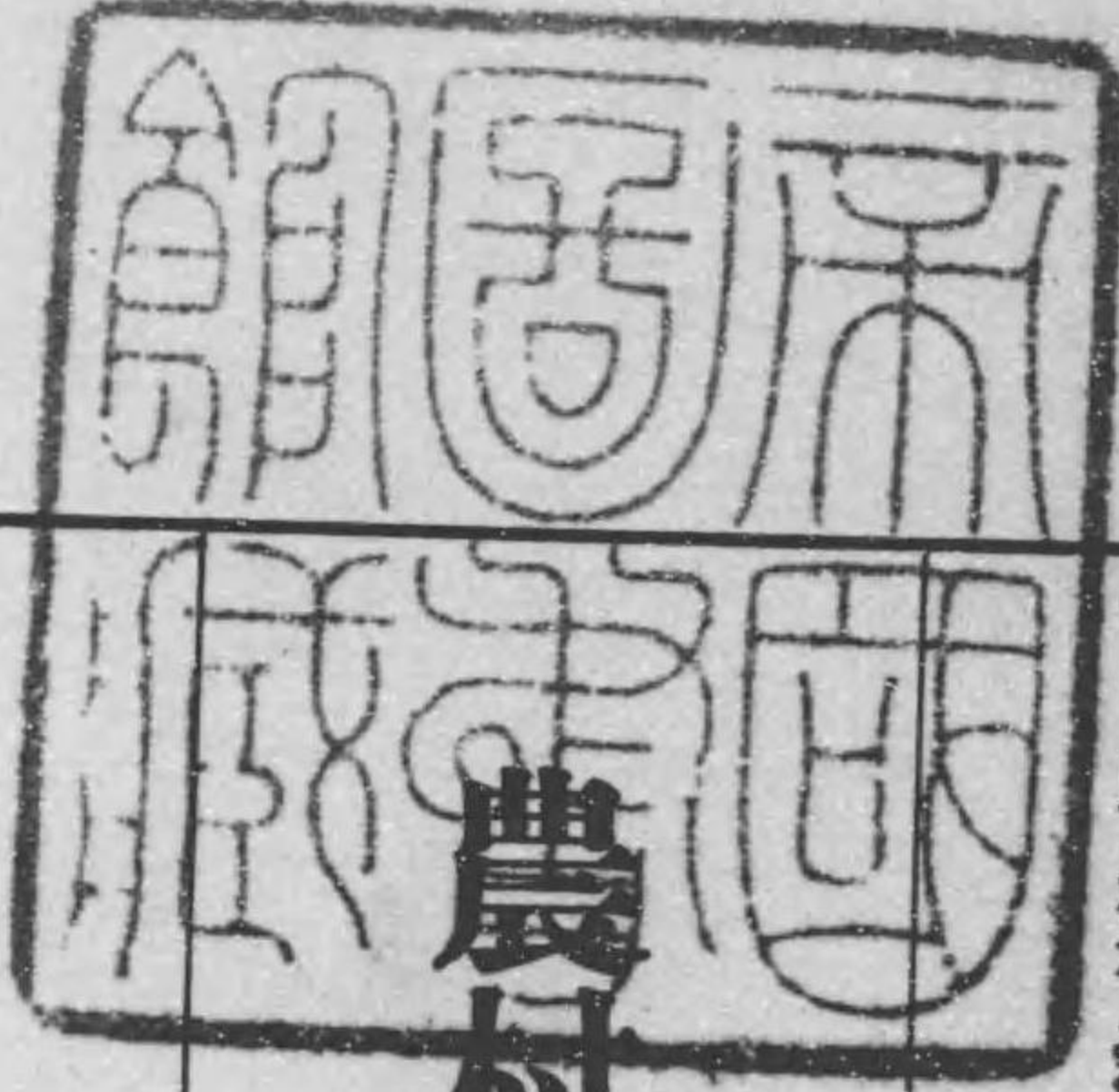
本讀校學音福村農



始



特201
310



日本基督教聯盟農村傳道委員會編著

農村福音學校讀本

基督教出版社版



序

我國に於ける農村福音學校運動は、大正の終りに其の端を發し、昭和になつて漸く勃興の機運を見るに至つた。

折しも昭和三年春（一九二八年）エルサレムに開かれた世界宣敎大會は、傳道の未開拓地として、農村傳道を高調するに至り、且つ世界を擧げて空前の不況に悩みつつある其の根本原因は農村の疲弊にありと認め、茲に人類幸福の源泉たる農村救済の急務を叫び始むると共に、其の實際運動の指導精神は基督の福音の外なきを痛感し、同年六月東京市日本青年館に開かれたる全國基督教協議會に於ても特に農村傳道は焦眉の急たることを絶叫するに至り、其の實行方法として農村福音學校開設運動が唱導せられ、同五年神の國運動が五ヶ年繼續として計畫されるや、其の中に於ても農村福音學校運動は重要なる一目標とせらるるに至り、俄

然として全國的に此の運動が勃興し、同六年夏には僅に三十校に過ぎなかつたが同十年春には既に百二十校を數ふる盛況となつた。

かかる機運に際し、全國の農村福音學校に學ばざる農村青年男女及び指導者に取り、共通なる問題を取扱ふ教科書の必要を感じ、日本基督教聯盟農村傳道委員會に於ては幾度となく特別委員會を開き、其の結果として農村福音學校教科書編纂の方針を定め、農村傳道幹事栗原陽太郎氏主として執筆の勞を取り、本教科書を編纂するに至つた。

而して前編は農村福音學校教科書として内容を記し、後篇は農村福音學校の趣旨及び其の經營方針教材の一般を示して、農村福音學校開設の参考に供したのである。尙後編五節基督教兄弟愛史、社會愛史、外國の部は賀川豊彦氏譯、リート、ステッド兩氏著より、日本の部は本委員生江孝之氏著日本基督教社會事業史よりの拔萃である。その轉載の許可に對して感謝し、更に本稿を校閲され、又數々の

助言を與へられたる生江孝之渡邊雪兩氏の勞に對して、本委員會は爰に深甚の謝意を表す。

冀くは此の讀本を参考とし、現在我邦に行はれつゝある運動を端緒として、農村の精神文化振興のため、大に進出せられんことを祈る次第である。

昭和十年十二月

日本基督教聯盟

農村傳道委員

「我また新しき天と新しき地とを見たり。これ前の天と前の地とは過ぎ去り海も亦なきなり。」

「視よ、神の幕屋、人と偕にあり、神、人と偕に住み、人、神の民となり、神みづから人と偕に在して、かれらの目の涙をことごとく拭ひ去り給はん。今よりのち死もなく、悲歎も、號叫も、苦痛もなかるべし。前のもの既に過ぎ去りたればなり。」

「視よ、われ一切のものを新にするなり。これらの言は信ずべきなり、眞なり」
「事すでに成れり、我はアルバなり、オメガなり、始なり、終なり、渴くものには價なくして生命の水の泉より飲むことを許さん。勝を得る者は此等のものを嗣がん、我はその神となり彼は我が子とならん」 (黙示録二十一章一―七)

目次

前篇 基督教農村文化の實現

第一章 基督教による農村の根本的更生……………(一)

 第一節 農村文化とは何か……………(四)

 第二節 基督教農村文化の實現された状態……………(七)

第二章 我國農村の現状……………(一四)

 第一節 驚くべき農村の負債……………(一四)

 第二節 兵力の不均等負擔……………(一六)

 第三節 勞力の負擔とその結果……………(二〇)

 第四節 農村金融と都市金融との不均衡……………(二四)

 第五節 指導力の供給……………(二六)

第六節 社會進化の過程より觀たる將來の農村……………(二六)

第七節 士族中心の社會……………(三)

第八節 商工中心の社會……………(三一)

第九節 農村中心社會の建設……………(三三)

第三章 農業經濟問題……………(三六)

第一節 農家經濟の改善……………(三六)

第二節 勞働日數増加の必要……………(三九)

第三節 農家消費經濟に就いて……………(四一)

第四節 農村の財政……………(六九)

第五節 農村協同組合……………(七四)

第四章 農村社會生活……………(八四)

第一節 農村の政治……………(八四)

第二節 農村の家庭……………(八八)

第三節 農村の社交……………(九二)

第四節 農村の保健……………(九四)

第五節 農村の娛樂……………(九)

第五章 農村の教育……………(一〇四)

第一節 農村問題中の最大問題……………(一〇四)

第二節 農村教育の重要性……………(一〇六)

第三節 農村の幼兒教育……………(一〇九)

第四節 農村の少年教育……………(一一一)

第五節 農村の青年教育……………(一一四)

第六節 農村の成人教育……………(一二七)

第七節 農村の社會教育施設……………(一二九)

第六章 農村の教會……………(110)

第一節 農村教會の特質……………(110)

第二節 農村教會禮拜のプログラム……………(114)

第三節 農村家庭集會のプログラム……………(118)

第四節 農村傳道のプログラム……………(122)

第五節 農村日曜學校の開設……………(126)

第六節 農村福音學校の開設……………(131)

第七節 農村社會への奉仕……………(135)

第八節 農村指導者の養成……………(138)

後篇 農村福音學校

第一章 農村福音學校の經營……………(141)

第一節 農村福音學校の方針……………(141)

第二節 農村福音學校プログラム……………(145)

プログラム實例、開校日數、二日間、三日間、四日間、五日間、
七日間、十四日間、一ヶ月間、二ヶ月間及女子福音學校プログラ
ム等

第二章 福音學校の教材……………(151)

第一節 基督教概要……………(151)

第二節 基督教と日曜日……………(154)

第三節 主の祈……………(158)

第四節 山上の垂訓……………(160)

第五節 基督教兄弟愛史、社會愛史……………(162)

第六節 音 樂……………(166)

目次

第七節 體操	(二八四)
第八節 特殊科目	(二八七)
第三章 農村福音學校と農村教會	(二九四)
第四章 農村福音學校の將來	(二九六)

農村福音學校讀本

農村福音學校讀本

前編

基督教農村文化の實現

「時は満てり、神の國は近づけり、汝等悔改めて福音を信ぜよ」

(マルコ傳一章十五節)

(1)

第一章 基督教による農村の根本的更生

現今我國に於て農村傳道の事を考ふるに當り、イエスの此の宣言は私達の胸に強く高く響いて、言ひ難き感激に満たさるゝのである。

何となれば、イエス御在世當時の彼が祖國ユダヤの現状を考察する時に、何れ

基督教による農村の根本的更生

の方面よりこれを観るも、悲觀すべき材料のみであつた。

祖國は獨立を失つてローマの屬領となり、國はヘロデ、アンテパスに治められ、國粹黨のバリサイ派は形式に拘泥して精神的生命は枯涸し、進歩黨を以て任ずるサドカイ派は、權勢に阿つて一時の安逸を求め、國民は重税に壓せられて極度の貧窮に陥り、暗澹たる不安の雲は國の上下を覆うて居たのである。

此の時にあたり、國民としては眞の愛國者にして又人類の救主たるイエスが、
「時は満てり、神の國は近づけり、汝等悔改めて福音を信ぜよ」

と宣傳された時に、多數の惱める民衆はこの聲に如何なる氣持で耳を傾けたであらうか。

ガリラヤ湖畔の無垢なる青年漁夫ペテロ、ヤコブ、アンデレ、ヨハネなどと云ふ一團は非常なる感激を以て、家業も棄て父母をも家に遺して、イエスの此の聲に全身全靈を捧げて従つたのである。これが地上を神の國とする運動の第一歩で

あつた。

千九百年前のユダヤに於てのみならず僅かに百年以前のデンマークに就いて之を觀るに、祖國は幾度か戰に敗れ、特に千八百六十四年普佛戰爭の渦中に捲込まれ、無數の國民は殘虐にも殺戮せられ、國土の三分の一と、人口の四分の一と、國富の五分の一とを失ふて、失望落膽の極に達した。

デンマーク人は、呆然として爲す處を知らなかつた其の時、熱烈なる宗教的愛國者グランドリヒが、イエスの「時は満てり、神の國は近づけり、汝等悔改めて福音を信ぜよ。」との精神に燃えて起ち上り、「愛する國民兄弟達よ、汝等悔改めて全身を捧げ、神を愛し隣人を愛し、祖國を愛し、土を愛することによつて復活することを得べし。」と叫んで、同志と共に國民高等學校を經營し、農村のペテロ、ヤコブ、ヨハネとも稱すべき青年達を、人格的教育、創造的教育によつて基督教人生觀社會觀に立脚せしめ、此の愛神、愛人の信仰的精神によつて農村の宗教、

教育、産業一切を改造し僅に七十年にして世界第一の基督教農村文化を實現するに至つたのである。

我等の祖國日本の農村が如何に疲弊したとは言へ、昔のユダヤや前世紀のデンマークなどは到底此の比ではなかつた。私達は農村現状の困難に壓倒さるる事なく却つてこの苦難こそ、基督魂によつて農民の靈魂を更生せしめ、基督教農村文化の實現を可能ならしむる絶好の機會とし、ある人の言へる如く「不氣景は天の使なり。」と感ずることが出来るのである。

農村福音學校はかかる運動の原動力を養ひ、指導精神を確立せしめ、基督教農村文化の母體たる重大なる使命を負うて勃興した新教育運動である。

第一節 農村文化とは何か

人間の理想生活は農村にあり

廣く世界を見渡して私達の氣附くことは、理想村と云ふものは到る所に存在す

るが、理想の都會と云ふものは唯の一つも見出し得ない事である。これは何を物語つてゐるのであるか、少なくとも二大原因があると思はれる。

第一、農村は自然と人間生活とが美はしく調和してゐる。

第二、農村社會は利害一致した社會である。

都會は之れに反して

第一、都會生活は自然と隔離されてゐる。

第二、都會の社會は利害相反するものが多い。

イエスは「我は眞の葡萄の樹、我が父は農夫なり」(ヨハネ傳十五章一節)と、神を農夫に譬へられたが、之れは極めて含蓄のある比喩であると思はれる。

神が人類へ與へ給ふた數限もなき恩恵のうちで自然を通して與へ給ふ恩寵は最も廣大なるものである。或る人が「神が我等子供に對して與へ給ふたものの中で、最も貴いものは何であるかと言へば、我等の棲んでゐる地球を取り圍んでゐる地

穀と云ふ薄い皮の層であらうと思ふ。天地開闢以來、我等が土地を取扱つた其の方法が上手であるか、或は下手であるかと云ふことによつて其の國の文明開化の程度を批判する標準とする事が出来る」と言つてゐる。

最も進んだ農村生活に於ては、神の與へ給ふた自然を通しての恩恵は驚くばかり利用されてゐるのである。

第一、農村に於て黎明床を出でて新鮮なる井戸水にて顔を洗ひ、東天に輝き出づる太陽の美しき光りに浴する瞬間、又は田園を訪れ来る朝風の囁きに耳を傾ける時、

踏むは大地、戴くは天、大丈夫の

手して拓きて高歩むべし

故間島弟彦歌

と言ふ様な氣魄が全身に漲るのである。天日の下に營む山野の生産勤勞、静かな夕の團欒等。農村生活こそは、人類に恵まれたる最も豊富なる神の賜物と言はね

ばならぬ。

第二、農村社會に於ては利害が相一致し、禁酒、禁煙、玄米食、燃料の節約、肥料の自給、冠婚葬祭の儉約、生産消費の諸組合等一致斷行すれば必ず實行出来るが故に、理想の農村は實現可能であるが、都會に於ては必ず利害相反するものが多きため到底現在の制度の下にあつては、理想の都會は實現不可能である。

第二節 基督教農村文化の實現されたる状態

世界を擧げて農村は疲弊し、農村の人口は都會へ集中され、如何に當局者が苦心しても、農民の離村を防ぐことが出来ないで困つて居る。然るに此の世界の大勢と反對にデンマークに於ては廿世紀に入つてから著しく農村人口の増加を見た。之れは即ち農村文化が都會の文化より實質的に向上して來たのである。この事實をみると、人間は文化の程度の高い方へと移動するものであつて、進歩發展を希ふ人間としては誠に當然のことと云はねばならぬ。如何に科學的文化が發達

して空に飛行機が飛び、地に自動車走り、ラジオが國中に利用され、享樂機關が備はり、あらゆる人智の限りを盡した施設が設けられてゐると云ふだけでは眞の文明とは言はれない。一國の文明の程度は不幸なる國民に對し、國家が如何なる待遇をしてゐるかを見れば諒解されるのである。

デンマークの農村では、國民中最も不幸なる者に對して以下の様な著しい施設がある。

第一、その一つとして行路病者に對する取扱を見ると實に至れり盡せりの待遇をしてゐる。或る村に一人の行路病者が出來ると、直に村の病院に收容して、五ヶ年の間は原籍の役場と、その病んでゐる村と入院費用を半分宛負擔し、五ヶ年経つて尙全快しない場合には、本籍をその病める村の病院に移して一生涯鄭重に看護してやる。

第二、寡婦となつて子供の幼少な場合には、子供が成人するまで一人残らず寡

婦年金を以て彼等の家庭を支へて、良人を失ひ父親を失つた不幸の家庭には更に經濟上の不安と苦痛を與へない様にしてやる。

第三、老人になつて子供に先立たれたか又は子供のない人々のために、村々に立派な養老院が建つてゐて、手工をやり家畜家禽などを飼つて、平和に晩年を送ることが出来る様にしてある。

第四、頭腦も良く健康で人物も確かであるが、貧しくて學費のない青年がある場合には學費を支給して本人の天分を發揮させ國家の爲めにもなる様に勉強させてやる。北海道廳技師山田勝伴氏の報告を見ると、デンマーク、南セーランドのエゲスボルグと云ふ村では人口一千百人(二百戸餘)で、納税者が六百人(一九二二)納税額二萬二千五百五十二圓程で、小學校三校・教員四人、校費六千六百圓、貧民救濟費六千六百五十圓、老人補助費三千五百五十圓。ヨルゲンスベア村には十萬圓の建築費を要した養老院があり三十二人の老人が手細工などとして楽しく暮し

てゐると云ふ有様である。小學校長年俸三千圓、次席二千二百五十圓、女教員千五百圓位の待遇である。國民一人當り年收が千五六百圓で、日本の十倍以上である。

七八十年前に疲弊のどん底に喘いでゐたデンマークの農村が全農村に一人の専任巡査も居ないで済むと云ふ今日の如き農村文明を發揮し得たのは、全く神を國民全體の父と崇め、皇帝を國民の家長と仰ぎ、デンマーク一國を一家と考へ國民各自を父なる神の前に眞の兄弟姉妹と信じた事によるのである。即ち基督教の神人父子、國民兄弟、一國一家の愛を根底とした温き大家族主義信仰の實現したるものであつて、我國農村の前途も基督教農村文化の實現を仰望して邁進する時には洋々たる希望の輝きを見る事が出来るのである。

デンマークの如く國を擧げて基督教農村文化を發揮する事は相當の年月を要するとしても、一村一郷を理想に近づけることはそれがたとへ困難であつても、割

合に出来易い事である。

一七七四年マーザー・アン・リーの指導によつて英國より北米に移住し、一七八七年ニューヨーク洲コロンビアのレバノン山中に創立されたシェーカー村の如き、既に基督教の精神によつて經濟問題を立派に解決して百五十年間未だ一度も經濟的に失敗した事がないと云ふ。

ジョン・ラツプ父子に指導されたハーモニスト村はピッツボルク附近のエコノミーに於て百二十年の基督教理想農村文明の歴史を飾つてゐる。

ヨセフ・ポイ・メラの統率せるペンシルバニア洲ゾーア村は百十年の歴史を有し、今より四十年前村民一人當り一萬圓の富を有し、北米人平均資産の五倍に達してゐた。

クリスチアン・メツツによつて始められたアイオワ洲アマナ村の如き八十年の歴史を有し而もアマナは七ヶ村聯合村であり非常な富を有し徹底的に基督教の理

想が實現されてゐる。特にこの村は特色のある村政を布き、シャンボアの著「神示による共同社會」を見るとハイネマンと云ふ老村長を載いてインスピレーション(神の示)によつて村を治めてゐるのである。

この村では二十四歳になつて初めて結婚に對する發言權を有し、當事者間の意氣投合を村の委員會に於ても之に同意した時は、一年間婚約の上、交際して二十五歳に至り互に可しと認めたる場合に、村婚により新居を興へて新家庭を營ませる。

村民全體の生活費は村にて支給する。尙日本貨幣にして一人五十圓より百圓までは、生活費以外の、知識を磨き趣味を高尙にし人格を高める爲めの物資を、切符制度で村より供給する様になつてゐる。

日本に於ても群馬縣佐波郡宮郷村字宮古の如き僅か二十三戸に過ぎない小字ではあるが、基督教信仰によつて指導され、耕地整理によつて耕作地は各農家の周

圍に分割し、共同耕作、生産消費の組合組織を作り、村道の橋は、最も早くコンクリートに改造し、特に著るしきは富めるものなく貧しきものもなく、箴言三十一章八―九節……にある。

「神よ我をして貧しからしめず富ましめず只無くてはならぬ物を興へ給へ。そは我飽きて神を知らずと言ひエホバは誰なりやといはんことを恐れ、また貧しくして盗をなし我が神の名を汚さんことを恐るればなり」
を標語として、趣味豊かに潤ある農村生活を營んでゐる。

何れにせよ、英國に於けるロッチデールの消費組合の經濟運動より、デンマークに於ける國民高等學校の人格教育運動を初めとして、現代世界に於て産業改革の成功途上に勝利の旗を揚げて、勇ましく進みつつあるものは、之れ悉く基督教信仰を根底としたもので、地上に神の國を建設するにはこの信仰によつてのみ、健全なる理想的農村文明を實現し得ることを證明して居るのである。

第二章 我國農村の現狀

第一節 驚くべき農村の負債

我國農村の窮狀を最も雄辯に語つてゐるものは、農山漁村の負債である。

昭和七年七月農林省農務課調査によれば五百六十萬戸の農村に於て總額五十四億九千四百八十萬圓に達する負債がある。

農林審議會に於ける農務局長の發表を見れば農家一戸當負債額は約千〇九十圓で、之を階級別にすれば、自作農一戸當千六百五十圓、自小作農千百三十圓、小作農五百二十圓に當る。而して此の利子は平均一割一分に當り一戸約百二十圓支拂はねばならぬこととなる。

如何にして我國の農村はかかる負債の重壓に苦しまねばならぬ様になつたか、病氣で云へばかゝる重病に陥つた病源は何であるか、その根本を明かにして根治

の道を講ぜねばならぬ。何故に日本の農村は貧乏するか。其の理由は多々あるが、紙數が少くないから今茲に其の項目だけを列擧すれば

一、必然的原因

- 一、歴史的社會的原因、二、耕地反別の狭少、三、農業の本質的原因、四、經濟組織の變遷、五、農村人口の増大、六、收支の不一致(生活程度の上進)
- 七、負擔の増大。

二、人爲的原因

- 一、農業經營組織の不完全、二、生産消費組織の不備、三、飲酒の惡習、四、冠婚葬祭の冗費、五、知識の缺乏、六、人格才能の士の缺乏、等々。
- であるが、右のうち重要と認めらるるものだけこの章に掲げ以下紙面の許すだけ順を逐ふて次ぎ／＼に記述する事とする。

第一、農村疲弊の根本原因は、現代の社會が商工中心の社會で、言ひ換へれば

資本主義社會、營利社會、都市中心の社會であつて、農業は本質的に營利經營となり得ざるために、農産物の販賣に於て、必需品の購入に於て常に商工業者の犠牲に供せられ、且つ社會生活のあらゆる方面に於て都市に都合よく、農村に最も不利なる現代の組織が、農村をして今日の如き窮狀に陥れた最も大なる原因である。

第二節 兵力の負擔の不均等

農村疲弊の根本原因と認むべき重要な點を列舉して見るに、

第一、國防即兵備に就いて農村と都市との負擔率を調べれば、實に驚くべき結果を見出すのである。昭和七年調我國總戸數一千二百三十四萬六千九百五十六戸の内農家は五百六十三萬二千五百五十四戸で四割五分六厘に當つてゐる。

然るに兵力の負擔は八割三分となつてゐる。勿論都市農村と大別すれば農村の出身兵士は六割強と云ふことになつてゐるが、我國の都市と稱するものの内に如

何に多くの農家が存在してゐるか、大東京の如きを見ても五百萬の人口中少くとも百數十萬人の農業人口を含むので嚴密なる農村出身の兵士は總兵數の八割三分に當ると言はれてゐる。百人の兵士中戸數割を以つてすれば四十六人弱農村が負擔すれば相當であるのに、事實は八十三人と云ふ驚くべき多數の兵力を負擔してゐる。

商工業其他農業以外の階級に於て五十四人負擔すべき兵力を僅かに十七人だけ負擔してゐるに過ぎない。

且ついざ戦争と云ふ場合に、特に決死隊を募らねばならぬ様な、旅順口の封鎖とか、二〇三高地の奪取とか云ふ時に、卒先肉彈となつて護國の鬼となるものは大部分農村出身の兵士である。滿洲事變に於ける爆彈三勇士及び之れに類する行動を取つた兵士を綿密に調べた處が殆ど皆農村出身の兵士であつた。戦争毎に不均等に多數の農村兵士が戦死して居るのである。

日清、日露、世界大戰の三役に於て連戦連勝、遂に東洋の一孤島たる日本が世界の三大強國中に加へられ一等國の名を贏ち得るに至つた直接原因として特に農村の兵士に負ふ處重大なるものが存するのである。

而して戦争によれる三倍四倍と云ふ物價騰貴の利益は主として商工業者の手に落ち、成金と云ふものは農村には絶対に生ぜず、悉く都會に生じてゐるのである。その上租税の負擔率を見るに驚くなかれ農村の過重負擔は左の數字によつて明である。

最近帝國農會の調査によれば、所得額に對する農工商の負擔比率は、

所得負擔階級別

(昭和七年帝國農會調)

所得階級別	地主	自作	商業	工業
三百圓	……	三四、九	一二、五	一一、五
五百圓	五一、一	三一、四	一三、七	一七、七

千圓	五四、二	二五、九	一三、九	一三、六
千二百圓	四九、二	二五、六	一四、四	一八、四
二千圓	六四、二	二八、〇	一六、四	一七、八
三千圓	六三、〇	……	一九、五	一八、二
五千圓	五八、八	……	一七、九	二一、四

更に國民所得の階級別を見れば、(昭和五年度調内閣統計局昭和九年發表)
内地國民所得總額百〇六億三千五百七十八萬五千圓、一世帯當り八百卅七圓、人口一人當り百六十五圓となつてゐる。

其中人口の五割一分を占める農業所得は十八億八千三百十九萬圓、工業三十四億八千三百萬圓、商業二十七億〇六百七萬圓である。一世帯平均八百三十七圓當りが農家一世帯平均収入は三百十三圓で國民一世帯平均より五百二十四圓不足となる。

而して資本金は商工業資本約二百億に對し農業資本は三百億以上である。二百億の資本に對して六十一億八千九百萬圓即三割強の收入ある商工業が、租税の負擔率に於て、農業百圓に對して商工業四十九圓と云ふ半額以下になつてゐる。農業は三百億の資本に對し十八億八千三百萬圓即六分三厘弱の收入で、租税は商工業に對し二倍以上の負擔となつてゐる。この一事を以つて見るも農村の疲弊は商工中心、都市中心の社會組織が大なる根本原因の一になつてゐることを明示するものである。而して兵力の過重負擔に對して國家は農村に對し何等補償の道を講じてゐないのである。

第三節 勞力の負擔と其の結果

第二は戰時に於ける農村の兵力負擔不均等に對して、平時に於ける農村の勞力負擔と其の結果を考察して見れば此處にも農村疲弊の大いなる原因を見出す事が出来る。我國に於ける産業の二大宗は云ふ迄もなく絹綿織維工業である。この二大

工業の如何によつて我國の經濟は殆ど左右されると見ても差支ない位である。而して此の二大産業を成立せしむる最大要素は之れに従事する約八十八萬人の男女（昭和九年帝國年鑑）職工であるが、この中七十二萬人が女工で他の十六萬人が男工及事務員である。

七十二萬の女工の中約十五萬人が十六歳未満の女子である。更に其の内紡織女工四十二萬三千餘人は寄宿舎に收容されてゐる。以上の男女工の殆ど全部に近いものが農村からきはめて低賃銀で供給されてゐる。

我が國のこの二大産業は全く農村の勞力供給によつて存在すると謂へる。而して織維工場の常として換氣が極めて不完全で、一室に多人數就業して、貧弱なる榮養によつて十時間の勞働に従事し、大多數は不衛生的なる雜居的寄宿舎に寢起するため健康を損するもの極めて多く、従つて此の平時の經濟戰爭に於ける犠牲的戰死者として悲惨なる死を遂ぐるもの一年一萬六千人餘に達するのである。

我國は氣候溫和にして春夏秋冬の變化概して順當のため健康であるべき十五歳より二十歳までの處女が世界第一の死亡率を示してゐるこの事實は何を證明してゐるのであるか。女は男よりも二十歳以下に於て特に健康であるべき筈なるに、我國に於ける處女は千人に對し九人六分の死亡高率を示してゐる。

この年齢の女子死亡率を世界各國に就いて見ると、北米三人二分、英國二人四分、伊太利四人四分、獨逸二人三分、佛國六人、新蘭土一人五分、瑞典三人四分、白耳義二人二分、丁抹二人一分に對し日本は九人六分と云ふ驚くべき數を示してゐるのである。

(22)

この娘達の死亡の最大多數は纖維工業に従事する工女である。一般婦人十二歳より三十五歳までの死亡率は千分の七人一分であるのに女工は二十三人と云ふ三倍以上の犠牲者を出してゐる。工場在籍工女總死亡千人中三百八十六人は結核及其疑あるものである。病氣解雇歸郷後死亡女工千人中七百三人は結核及その被疑

者である。

工女を最も多く供給する地方は北陸東北の如き米作農業地方で主として小作農家より送られてゐる。此の貧農の家庭に生れ工女となりしたために健康を害し、工場に於て死亡するものと、歸郷後家庭に於て不完全なる療養後死亡するものと約相半ばして居るが、家庭に於ける患者が病菌を家族に傳播して、工女のみならず工女を出した家庭中より多くの犠牲者を出し甚だしきに至つては家族全滅に陥つてゐるものすら生じてゐる。

(23)

低賃銀にて妙齡の身を二大産業に献げ、以上の如き平時の經濟戰に戦死を遂ぐる痛ましき此の農村の犠牲者に對して國家は如何なる救濟の道を講じてゐるか、此處にも都市中心の營利社會が農村を疲弊せしむる一大原因を見出さしむるのである。

第四節 農村金融と都市金融との不均衡

第三に農村は約五十五億の負債を擔ふてゐるが、農村より都市への預金を調べると、此處にも驚くべき都市中心の金融機構により農村が疲弊に陥る一大原因を見出すのである。

農村より都市金融界に運用されてゐる預金を列擧すれば

第一、郵便貯金である。昭和九年六月末貯金管理局調總額二十九億三千萬圓であるが、其の内農業預金者六百六十四萬人金額に於て約二割の貯金であつて、三分の利子で大部分都市の金融界に運用され、其の内一少部分が二倍半の高利子となつて農村に還元されるのである。

第二、簡易生命保険である。總額二十七億の契約中三割強は農村の加入で約九億圓の契約拂込金が主として都市の金融に用ひられてゐる。

第三、一般普通營利會社生命保険契約百〇一億圓の中約三割三十億萬圓（昭和

九年四月保險協會調)は農村の契約拂込責任額である。之れも大部分都市金融界の潤となつてゐるのである。(因に三十三生命保險會社總資産二十億圓、昭和八年末調)

第四、銀行預金、昭和六年末調特殊銀行十一億圓普通銀行八十一億圓貯蓄銀行十六億圓合計百八億中約四割即四十三億は農村よりの預金である。昭和八年末調群馬縣全銀行預金額約一億以上に達するを見ても三府一道四十三縣に亘る農村よりの銀行預金の驚くべき多額のものが、合同によれる大銀行主義のため之れが大都市本店に集められて、都市に大部分流用され地方の金融を困難ならしめてゐる。

第五、産業組合の出資金十五億圓は主として地方農村金融のために集められたものにも不拘その内約六億は中央に預金となつて都市の運用に委ねられてゐる有様である。

其の外國税として納めたるものも多くは都市の官吏、宮立學校教師の俸給等に用ひられ更に中等學校以上の學校に學ぶ男女百四十三萬人の學生が費す莫大なる學費は公費のみにて約二億圓を要し、學生の私費を平均年額三百圓とするも四億三千萬圓と云ふ巨額が都市に投ぜられて金融を露し、地方農村は學費を都市に提供するのみで何等露さるる處はない。その上かくの如く農村より都市へ供給する金融總額は低利で數十億にも上るであらうが、翻つて農村の負債五十五億は前述の如く平均一割一分の高利に悩まされてゐる。

かくして農村は疲弊せざらんと欲するも能はずと云ふ状態に陥つてゐるのである。此處でも都會中心の社會組織が農村をかかふる不利に導いてゐることは否み難き事實である。

第五節 指導力の供給

第四は農村より現代社會に對する指導力の供給に就いて考へて見ると、農村は

兵力、勞力、資力を都市に供給してゐるばかりでなく、實に國家社會の指導力も亦農村より供給してゐることを知るのである。

政治上に於ては總理大臣を始め各省の大臣より高給の官吏、各大學の總長及び教授より將來の指導者たるべきそれらの後繼者並に次の時代に指導者たるべき大學、専門學校の學生等、あらゆる社會の指導者の大部分が農村地帯の出身であることを見出すのである。

歴代の總理大臣を見れば三大都市出身者中には殆ど之れを見出すことが出來ない。鹿兒島、山口、高知、岡山、宮城、岩手と云ふ如き邊陲の田舎者によつて最高指導者たる地位は占められてゐる。知識方面に於ても各大學總長の如き大部分田舎出身のもので大都市出身の者は之れ亦殆ど皆無に等しい有様である。

それが嘗に政治、學問と云ふ方面ばかりでなく、二百億の資本金を以つて活動してゐる實業界の内に、數百千を數ふる營利會社に於て、信用すべき經濟雜誌社

の調査によれば、あらゆる會社の社長及重役の九割は農村地帯の出身者たる統計を見出すのである。

更に人心の指導に於て精神界の指導者たる宗教家に就いて見るも同様な結果になつてゐるのである。

以上の如く從來の社會は悉く都市中心、商工中心、資本主義中心、即ち營利中心の社會であつて、そのため農村は現今の如き窮狀に陥つて仕舞つたのであるが、而してこの都市中心の社會も發達し得るだけ發達して、現今は資本主義そのものが行詰つて崩壊すべき運命となり、都市中心の現代世界は空前の不況と不安に悩まされ、今や社會組織即ち經濟組織の一大轉向をなすにあらざれば社會は存立し得ない状態に立到つたのである。茲に於て我等は來るべき新社會に就いての見透しをつける必要に迫られてゐる。

第六節 社會進化の過程より觀たる將來の農村

人間の社會は、個人が幼年期より少年期へ、更に青年期壯年期と進んで行く道程に一定の法則が働いてゐる様に、社會そのものが幼年期より少年期へ、少年期より青年期更に壯年期と進んで行くのである。我國の歴史を顧るに餘り古き昔は問はず、群雄割據の時代より徳川の封建時代となり更に進んで明治維新となつたこの間の社會の中心は何んであつたかを考ふるに多くの學ぶべきものを見出すのである。群雄割據の時代と比較すると徳川の封建時代は國家が國民に對する生命財産の保護に於て、著るしき發達を見てゐるのである。

徳川時代に於て始めて大體に於て國內に平和の時代が來つた。群雄割據の時代は恰も今日の支那の如く内亂絶え間なく、この時代の農民の生活は不安極まる悲惨なものであつた。徳川時代になつて初めてある程度まで生命財産の保護が與へられた。併し現在社會と比べて見ればその生命財産の保護に於て、雲泥の差を見出さざるを得ない。

徳川二百五十年の治世を見て驚くべき一つの事は、大平の時代にも拘らず今を去る二百年の昔享保十七年調（有賀長雄氏著帝國史略による）全國人口二千六百九十二萬千八百十六人の人口が百五十年間餘り増加しなかつた事である。明治以來僅に六十餘年間に我國内地の人口は二倍以上の増加を示してゐるのに、百五十餘年の間に人口が餘り殖へなかつたとは驚くべき問題と言はねばならぬ。

これには二つの注意すべき大きな事實がある。その一つは享保、天明、天保の三大饑饉があつて我國の人口を激減させたのである。享保の饑饉は四國中國九州方面に著るしく、伊豫松山藩内筒井村百姓作兵衛が一俵の種麥を枕として一家全滅し義農作兵衛として祭られた物語りもこの時の出来事である。天明、天保の饑饉は關東、東北に甚だしく、福島縣相馬藩の如き十三萬の人口が天明の饑饉で僅に三萬人に減じ、天保七年の饑饉には秋田藩の如き四十三萬の人口が十一萬人餓死してしまつたと云ふ有様であつた。これが爲めに饑饉と云ふ聲は全國民を戰慄せし

め、數限りなき哀話が遺されてゐる。一度饑饉が訪れて來れば幕府や大名が全力を擧げて充分救濟の道を講ずることは出来なかつたのである。（大西伍一氏著日本老農傳）

他の一つは産兒制限である。之れは今日言ふ處の産兒制限と異り、生れた赤子を間引と稱して窒息死に至らしめるので殆ど公然の秘密として全國的に行はれたものである。これにも種々なる哀れな物語が澤山遺されてゐるのである。

尙この外に新刀の切味を試すと稱して切棄御免と云ふ様な事も層々行はれた。かくして群雄割據の時代に比べれば徳川時代には餘程生命財産の安定を得た譯であるが、現代の帝國と比べて殆ど比較にならない有様である。

第七節 士族中心の社會

徳川の封建時代は三千萬人の國民を四十萬人の士族が治めてゐた士族中心の社會であつた。何もかも皆士族に都合のよい社會であつて、此の四十萬人の士族を

支持したものは農村の年貢であつた。

徳川時代に於て租税は獨り農村の負擔であつて商工業は免税で營業をして居つたのである。元祿九年國用足らざるため僅に幕府直轄地の酒造家二萬七千戸に酒税を課しただけであつた。

五代將軍綱吉の時代に幕府の財政困難に陥り、金銀の惡質改鑄により五百萬兩を得たのであるが、諸大名も之れに伴ひ且つ紙幣を發行して國用に充てて居つたが、後幕府の禁ずる處となつて大阪の巨商より負債を起すものが多くあつた。

第八節 商工中心の社會

士族中心の社會は王政復古天皇親政の國論と内外の情勢は大政奉還を餘儀なくせしむるに至り、遂に明治維新となつたのであるが、明治以來今日に至る社會は二百五十年間無税で營業を續けたる商工業者の手によつて資本主義社會、營利社會都市中心の社會となつて農村を下積とし搾取して驚くべき機械文明、物質文明

を築き上げて今日の狀態となつたのであるが、搾取されつくしたる農村の疲弊は都市の製産物の購買力の激減となつて、營利社會、商工業中心、都市中心の社會は遂に使命を終つて、農村中心の社會を新たに建設することによつてのみ萬民平和の時代を來さねばならぬ時となつて來たのである。

第九節 農村中心社會の建設

印度のガンデーが「世界の問題は農村問題を解決することによつて初めて解決出来る」と叫んだ言葉には深い含蓄があると思ふ。

農村中心社會の建設は如何にして實現出来るかと云ふと、生産經濟に於ては産業の建前を改め産業組合組織によつて生産、加工、販賣の利益を一切農村に收め、消費經濟の方面も自家生産物の經濟的消費法と購買組合の組織によつて農村中心の經濟組織に改めるのである。

丁抹の農村は一切組合組織によつて農村中心社會を建設した爲めに世界最高の

農村文明を實現することが出来たのである。唯問題は如何にすればその農村中心社會建設の實力が養へるかと云ふことである。

そこになると農村の人達は、六ヶ敷云ふと人生觀が一變しなければならぬ。何故かと云ふに日本人は非常時以外は大體利己主義である。農村人もその例に洩れない。自分のことだけしか考へない。人生觀が小さく低い。自分だけ樂に暮せばよいと云ふ考へが大體を支配してゐる。之れでは農村更生は絶體に出来ない。

再び丁抹の例を取ると同國では三百五十萬の人口中三百四十八萬人以上同じ人生觀をもつてゐる。それは天の神様を丁抹國民全體の眞實の父であると信じ、その結果國民全體が父なる神様の前に眞實の兄弟姉妹であると信じて相愛し、隨つて丁抹一國が一家であると確く信じ、この一國一家兄弟姉妹全體の幸福のために國民一人々々が協力一致して、恵まれたる國を實現しやうと懸命に努力した結果今日の様な美はしい、困つた人の居ない國となつたのである。

此處が即ち基督教の信仰を根底とした人生觀が確に一致してゐるので、生産、加工、販賣も一家中の仕事としてやつてゐる。即ち他人なし親子兄弟水入らずの國家が出来上つたのである。ソコに無限の強味がある。これなくしては農村中心社會の建設は實現出来ないのである。私達同志が農村傳道に熱中する所以も此處に根底があるのである。

農村中心社會の建設によつて農村も救はれ國家も救はれ都市も健全なるものとなる事が出来る、心血を注いで農村中心社會の建設に献身せねばならぬ理由が此處に存するのである。

註一。商工業徒弟の大部分は農村出身であつて、職業別とすれば商工業であるが、農村出身のために徴兵合格率が多いのである。

註二。大正七年度調査によれば農村貯金人員は全員の三割五分二厘八毛金額三割二分五厘六毛であつたのが、昭和八年度調査に於ては人員一割八分九厘五毛、金額一割七分六厘一毛に減じてゐる。茲にも著るしい農村の疲弊が窺はれる。

第三章 農業經濟問題

第一節 農家經濟の改善

總ての經濟問題は生産と消費との問題である。農家經濟の實際問題もこの二方面の運用如何によつて困難にも陥り、亦恵まれたる農村生活を營むことが出来る様にもなる。

そこで先づ第一に農家生産の方面から検討して農家經濟を困難に陥れてゐる重大なるものを掲げて見ると、最初に生産資金の問題を擧げねばらぬ。我國に於ける農業生産資金が法外に金利高で、且つ償還年限が甚だしく短期である。

今日我國農家の經濟を最も甚だしく困難に陥れてゐるものは、五十五億圓の負債であると云ふのであるが、事實は負債そのものは多額であつても低利と償還期限の延長とによつては必ずしも負債は恐れるには足らないのである。

例を丁抹に取つて見るとその事實が極めて明瞭に分る。彼の國では世界戦争前は農業資金の利子は年三分五厘で、償還年限は九十九ヶ年であつた。丁抹の小農即ち二町四反歩以下を耕してゐるものでも農業の利廻は年九分に當る。その内利子三分五厘、元金一分を引くと純益が四分五厘となり、中農即十五町歩前後を耕してゐるものは利廻り年一割一分三厘に當り、元利四分五厘を拂つて純益六分八厘となり、大農即ち六十町歩前後を耕すものは年一割三分五厘の利廻で元利四分五厘引いて純益九分に當る。

以上の事實を見ても、負債はあつても有利に經營出来れば少しも差支ないばかりでなく、多く負債のあるほど多くの利益を得られると云ふ事になる。

然るに我國農業の生産資金は利子平均一割一分償還年限三年及五年と云ふ様な極端な短期で、全く農業經濟を無視した無理解極まるものである。従つて結局元利回收不能に陥つて、債權者も債務者と共に困難に陥り、極端なる金融梗塞時代

を出現して惱んでゐるのである。

農家經濟の改善には根本的低金利償還期限の延長によつて此の問題の解決に當らねばならぬ。政府の低利資金による自作農創設の如きも、三分五厘の利は可とするも、償還期限の二十五年は尙短期に失して元金の回收が不充分なるに顧みても農家經濟の建直しに對し低金利、長期償還による農業資金の徹底的改善を謀る事が刻下の急務である。

元來農業の様な回收の手間取れる利廻の極めて少ない職業に對し、殊に天然相手のため時々不作凶作に悩まされる産業で、而も國民生活を支持する絶対必需品を作つてゐるのであるから、低利で償還の延長を要することは、餘りにも當然の事である。それを知らずして資本主義的精神を以つて農業資金を運用せんとするから、今日の如き窮狀に立至つたのである。この點に就いて我國農業資金問題も丁抹に學ぶ處があらねばならぬ。農村自力更生案の如きも負債整理問題の如きも

この根本問題を閉却しては決して解決することが出來ない。

第二節 労働日數増加の必要

第二、労働日數の過少に就いて考察すれば、農村民はあらゆる職業中農業を以つて最も甚だしく労働するものと考へてゐる。即ち晨に露を踏んで家を出で夕に星を頂いて歸ると云ふ譯であるが、それは農繁期だけのことであつて、その實際を農業日誌に就いて一年中の労働日數を調べて見ると、勿驚日本農家全體平均労働日數は一年百八十日を出ない。特に東北降雪地方では僅に百五十日に過ぎない。

那須博士の調査によれば我國農家一年間の労働日數は總計二十七億日で、一農家平均四百八十二日に當る。一戸の労働力を二人八分として平均百七十二日となる。農家以外の勤勞日數總計は三十八億日で一戸平均五百六十七日、人口に於て五割一分を占めてゐる農村が勤勞日數に於て他の職業より十一億日の減少で一戸平均として八十五日勤勞日數が少ない。而して機械力應用の範圍が廣くなれば廣く

なるほど、耕地面積の變りのない限り労働日数は益々少なくなり、茲に農村工業化と云ふ如き餘剩勞力の使用法に就いて新しい計畫も起る譯である。

凡そ如何なる職業と雖も一ヶ年百八十日以内の労働によつて一年三百六十五日の生活を支え得るものは餘程有利な職業でも到底それでは生活費の不足を告げない譯にはゆかぬ。況や農業の如き収入の少額なものに於ては殊更收支償はないのは餘りにも明白な事實である。これは如何にすれば一年三百六十五日働くことが出来るか、我等は毎日生活費を要する故に毎日収入がなくてはならないのである。

(40)

支那の諺に「一日働かざれば一日食せず」とあるが、支那の農業労働者の生活を觀てゐると、彼等は朝から雨でも降つて全く働けない日があると格言通り終日飯を喰はず、靜かに横はつて身體を休めると共に胃腸にも休養を與へて、文字通り静養するのである。私達は支那の労働者に於て初めて胃腸にまで休みを與へて静

養と云ふ事が實行出来る事を知つた。これは實に大切なことである。あらゆる宗教に斷食の修業があるが、あれは信仰上の事ばかりでなく、人間は時あつてか胃腸にも休養を與へる事が身心に極めて効果のある大切な事柄である。

然るに日本の農村に於ては、雨の降る日は「雨降り正月」と稱へて朝から御馳走を拵へて、身體は休ませるが胃腸には二日分位の労働を課して胃腸病となるものが少なくない。我等日本の農民も支那の農夫と同様に胃腸にまで休養を與へられる位の節制力がなくては、到底滿洲新國家に移住して彼の地の農夫と共に農業に従事して成功する事は覺束ない。

(41)

さて如何にすれば農村に於て一年中働く事が出来るかと云ふと、答は極めて簡單である。西洋の諺に

「家畜なければ肥料なし肥料なければ農業なし」

と。只我國の農業と西洋の農業との相異點の一ツは西洋では肥料に人糞を用ひな

いで、家畜肥料を用ふる。この點は我國の方が蛔虫に悩む缺點はあるが遙に有効な肥料を用ひてゐる譯であるけれども、家畜家禽を飼ひ、更にその生産物を加工することによつて一年三百六十五日の労働能率を上げる事が出来る。

但し家畜家禽を飼ふには耕地面積と人手と地方の情況によつて按配をする必要はあるが、農家經濟の改善に就いてこれは絶対に必要な事である。

家畜家禽を飼ふ事によつて少なくとも左の諸點に於て益する處がある。

第一、乳牛、山羊、緬羊、鶏、豚、兎等を飼養すれば一年に數度しか収入のない農家に毎日の様に収入を得る事が出来る。乳牛の如き大畜は組合制度が確立して居るか、餘程餘裕のあるものでないと、成功が六ヶ敷いが、緬羊、山羊、鶏、豚、兎などは僅な面積と資金に於て飼育する事が出来る。勿論周到な研究と綿密な用意とを要する事は勿論であるが、乳、卵、肉と云ふ様なものが毎日亦は時々生産されて日々の収入が得られる。毎日収入のあると云ふ事は我國農家經濟に取

つて極めて有利なことで、經濟的ばかりでなく心理的にも良き結果を齎すのである。

第二、労働能率を上げる事が出来る。家畜や家禽は子供や老人や婦人が飼養しても、一人前の男がやつても一定の方針さへ立つてゐれば、能率に異りはない。この爲めに家族全體の能率を高める利益があるのみならず、動物愛によつて家族生活が潤され農家生活を樂しきものとしてくれる。

第三、肥料の自給が出来る。農家經濟のうちで肥料代は驚くほど多額に上るのであつて、適當なる家畜家禽の肥料により自給なし得れば現代農家經營の重荷の一つは卸される譯である。

更に一步を進めて飼料の自給まで進む必要がある。

第四、動物性榮養を充分に攝取する事が出来る。現在日本の農家に於ては殆ど菜食ばかりで、動物性の榮養に甚だしく缺乏してゐる。之れを補ふには家畜家禽

を飼育して、乳、卵、肉等を用ゆる外に途はない。ザーネン種優良山羊二頭飼養すれば春分娩のものは秋まで、初秋分娩のものは春まで毎日一升程の最も人乳に近い栄養の多い無菌乳を出してくれる。家族五人のものが一年中毎日二合宛飲用すればそれだけでも、どれ程健康を増進するか知れない。來客にも用立てる事も出来るし、卵と乳で捏ねた上等のパンも食する事が出来る。

卵も二重卵や小形のものや傷物は自分の家で用ひ、廢鶏も屢々食膳に上せる事が出来る。家畜家禽を飼養するに大切な事は飼料の自給である。我國農家に於て、特に養蠶米作地方に於て綿羊の飼養は一戸の農家經濟に取つても一國の經濟に取つても實に重要な意義を有してゐる。

綿羊に就いての過去の失敗は牧草によれる放牧式のやり方が大部分失敗してゐるので、舍飼による四五頭程度のもは周到なる管理をすれば殆ど失敗はないのである。飼料は米作地方に於ては粳糠を常食とし、養蠶地に於ては、それに蠶糞

を交へて與へれば最上の飼料であつて、この飼養法による綿羊の成績は全國第一等を示してゐる。仔綿羊も高價に賣れ、農閑期に於ける毛糸製造よりホームスパンまで實行するに至れば實用と趣味と經濟に於て驚くべき効果を擧げ、且つ羊毛及び毛織物の輸入を減少せしめ、全國農家五百六十萬戸の協力によれば羊毛の自給も決して夢ではなく、國策上重大な問題の一つを解決する事となるのである。

第三節 農家消費經濟に就いて

食物の消費經濟 (一) 先づ第一に我等日本人の一日も缺くべからざる米に就いて考察すると大部分の國民が白米を食べてゐるが、そのため全部白米中毒即ち白米病に罹つてゐる。

先般、帝國學士院で鈴木梅太郎博士の紹介で、理化學研究所の岩田元吉學士が主となつて白米中に含まるる有毒成分「リゾレスタチン」の抽出に成功した旨の發表があつた。それによると白米には毒蛇などの有する猛毒と同様の毒があり、これを

二萬倍に稀薄にして鯉に注射すれば鯉は粘液を吐いて苦悶し、人間の皮下に注射すればその部分に鬱血を起して腐蝕する。また腦膜に注射すれば劇しき腦膜炎症を發する。乳兒脚氣もこの毒が母乳に混じて起るのではないかと言はれてゐる。それは兎に角玄米には蛋白質、含水炭素、脂肪、無機物、鐵、燐、カルシウム、マグネシウム、カリウム、ナトリウムを有して人體の榮養に缺けるものは僅に沃度、硫黄、塩素、硅土、だけである故に、玄米食に新鮮なる野菜と若干の海藻と鹽を加へれば完全に榮養が攝れるが、白米食となると三分搗で玄米に有る外果皮を失ひ半搗で、葉綠粒中果皮を失ひ、七分搗で、内果皮、種子、胚子を失ひ、白米に至つてクレール層を失ひ、上白米になれば胚乳部を失ひ、玄米にある大切な榮養の大部分を糠として失ひ生命素が缺乏するのみならず、點々として搗粉が白壁に彈丸を打込んだ様に白米の内に入つてゐる。白米食によつて類脂肪體、無機分が缺乏するために楔子の抜けた家の様に身體に抵抗力がなくなり、子供の脱腸

を始め乳兒の乳脚氣による消化不良、大人の消化器病、皮膚病、肋膜炎、腹膜炎、動脈硬化症、腦溢血、禿頭、齲齒、關節炎、カリエス等々が起つてくる。

我國六千五百萬の同胞がこの恐るべき白米病に罹つて居る最も明白なる證據は百五十萬人の脚氣患者の存する事で、外國に全くなくして我國にのみ存するこの病氣が白米から起つてゐることは周知の事實である。而もその百五十萬の患者は老人や小供になく多くは働き盛りの男女を襲つてゐるのである。假にその百五十萬人の脚氣患者が一日一圓宛働き得るとすれば一日に百五十萬圓十日に千五百萬圓百日に一億五千萬圓一年に五億四千圓働き出せるのであるが、却つて療養のため餘分の費用を要してゐるのである。その他白米病より起る積極消極の損害は到底筆紙の盡し能はざるものである。

尙、白米は榮養が少なくなるから多くの副食物を攝らねばならぬ。今之れを経済上から見ると我國に於ける食糧米は七千二百萬石であるが時價白米一石三十三

圓とすれば二十三億七千六百萬圓となる。之を玄米に代へれば一石三十一圓で半量の三千六百萬石で足りるから十一億一千六百萬圓となりその差額十二億六千四百四十萬圓となる、私の家では七年前より絶對玄米食を實行してゐるが食料は恰度白米の半分で足りる。八人で一ヶ月白米八斗を要したのが玄米は四斗で済む。その譯は硬質米は玄米一升炊くに水二升を要し食量は三分の二に減ずるからである。私達玄米食黨の成績は皆大體同様である。而も極めて美味で旅行中の白米食は常に苦痛を感じてゐる。

之れを一家の經濟から計算して見ると、白米月八斗は石三十三圓として二十六圓四十錢、玄米四斗は石三十一圓として十二圓四十錢、差額十四圓、一人當一圓七十五錢、年額一人二十一圓、我國農家一戸の人口は約六人であるから平均して農家一戸玄米食となれば一ヶ年百二十六圓の利益となり、一村五百戸とすれば一村平均六萬三千圓の利益となる。加之玄米は榮養多きため副食物が半分で済む。

榮養學者の研究によると白米食なれば一日、日本人は最低副食物十五錢を要すると云ふ、玄米食になれば上述の如く僅に玄米に缺けたる榮養素だけを攝れば良いのであるから、一人白米による副食物一ヶ月四圓五十錢、一年五十四圓要するものが、玄米食にして一ヶ月二圓二十五錢一ヶ年二十七圓、その差額二十七圓、一戸六人として百六十二圓、一村五百戸として八萬一千圓、全國六千五百萬人として十七億五千五百萬圓となる。米と副食物との差額を合計すれば三十億一千九百四十萬圓となる。

玄米は基督教の十字架の様な處がある。一寸見は悪いが噛み占めて見ると滋味津々として到底止められるものではない。但し薄信の者は滋味が出ないうちに止めるので誠に遺憾に堪へないが、併し全國的に玄米黨は日に月に増加しつつあるので纏て全國民に玄米食實行の時期が至ることを祈つて止まない次第である。特に農村に於ては玄米食の實行は焦眉の急であつて、神様より與へられた玄米其の

儘を用ふる事によつて農村更生の第一歩としなければならぬ。

(二) 次に大麥に就いて考察すれば我國民は近年大麥を段々食べなくなつてきたが、これは大なる誤りである。大麥は常に價額は米の三分の一であるが榮養は仲々豊富で、カルシウム、ビタミンB、アルカリ等を含有する大切な食糧品である。私が五六年前より實行してゐる簡單で美味なる大麥の用法がある。大麥を皮の儘煎り、石臼にて挽き細かき篩にて粉を抜き、この粉は香煎として用ひ、更に荒き篩にて外皮を取り、その中間の細粒を熱湯に投じ火の上にて二三分かき混ぜれば香ばしきパーレーミルが出来上り、それに食鹽なり好きな人は砂糖を混じ自家用の山羊乳があればそれをかけて用ふれば極めて安價にして榮養の豊富なる簡易食事が出来る。三越で賣つてゐる益田氏の石垣山農場で製造するパーレーミルと實質に於て同様のもので價格は七分の一で出来上る。それに荒篩の上に残る外皮は家畜家禽の飼料として上々のものとなる。

(三) 第三小麥はその價額は大量生産の輸入品がなければ常に大麥の二倍が標準である。現今製粉會社製造のものは白米病と同じく、白パン病と稱して衛生思想が發達してゐる外人は之れを用ひず出来得るだけ黒パンを食してゐる。恰も日本の衛生思想の發達せるものが玄米を食すると同様である。私が小麥を常食として用ゆる方法は、大麥のパーレーミルと同じく小麥を皮の儘煎り、白にて挽き細粒として熱湯に投じ火の上にて二三分かき混ぜ、ホキート・ハートとしてパーレーミルと同じ方法で食べるのである。製粉會社製造の小麥粉は製粉機の發達と共に餘りに細密なる絹篩を用ゆる爲めに上白米と等しく小麥の元來有する榮養分を穀の中に大部分残してしまふ上に、防腐用の酸性、土壤を混入するため二重に有害のものとなるのである。我等の毎日用ふる溫飽、パン、菓子等皆この種の小麥粉を用ひてゐる事を思へば、我國農家に於ては農林省の小麥増殖獎勵の機會に、品種を改良して多收穫を計り勉めて自家用に小麥を用ふる事を心がけ農村更生の一助と

しなければならぬ。(四)飲料 第四に飲料に就いて考察すれば自家醸造の醬油の問題もあるが、茲には唯酒と煙草だけに就いて述べる。

日本酒の醸造は近年少し減じて來たが洋酒の需用が増してゐるから全體としては矢張り年額十五億圓を消費してゐる。酒が有害無効である事は餘りに明白である。十五億圓は六千萬人に割當ると一人金二十五圓となり五人一戸とすれば一戸百二十五圓となる。其れが米の様に六千萬人が皆用ゆるのでなく二十歳以上の主として男子で(日本では婦人で飲酒するものは極めて少數である)而も二十歳以上の男子でも凡てが飲む譯ではないから酒飲は約千八百萬人位のものである。この人口の三分の一弱のものが飲むとすれば一人當七十五圓になる。この酒が如何なる害を及ぼすか。人間の發達は赤ん坊としてこの世に生れ出づるや直に第一活動を始めるのは運動神經である。母親の膝に抱かれて居る時から盛んに飛び跳ねる。これは運動神經を發達させる爲めである。

その次に發達するものは知識である。嬰兒が小兒に成長して言葉が通ずる様になると見るもの、聞くもの、觸るるもの、味ふもの、五官の一切を働かして知識慾の對象とならないものはない。萬事萬物を知らうとする熾なる知識慾が働いて初めて色々の物の道理を知る事が出来る様になるのである。知識慾は神様が人の子に與へ給ふた誠に貴い賜物と云はねばならぬ。この働きがあつてこそ人間が他の動物より遙に優れた存在となることが出来るのである。その次には感情が發達して萬物に對し好悪美醜の情が働き出す。小兒は始めの間はこの感情が僅かに働くに過ぎないが、長ずるに従つて漸次發達し遂には極端にこれを發揮する様になる。殊に少女時代にはこの感情を發揮する事が甚しい。

これも誠に人間として尊い性能であつて、これあつてこそ人間が高尙優美の生活をお営むことが出来る譯である。更に其の次に發達するものは意志であつて五官を通して得た知識を土臺とし、感情を以つて洗練をなし、是非善惡の判断を誤らず

取捨選擇して理性に従つて感情を整理し、惡は斥け善を行ふ事が出来る様になつて、初めて萬物の靈長たる人格の基礎が出来るのである。然るに酒は一人の人間の兩親初め兄弟親戚友人知己教師先輩らが一生懸命に骨を折つて育て上げた一個の人格の最後に發達した意志を先づ第一番に麻痺させて人格の基礎を覆してしまふ。實に憎むべきはアルコールである。酒を飲むことによつて人は人格を亡ぼすに至る。一度意志が麻痺すれば其の後には善惡美醜の差別を失ひ、情感が麻痺してドシナ醜態でも平氣で演ずるに至る。かくなつては知識が何んの役にも立たなくなる。最後に運動神経が麻痺するに至つて電信柱に衝突しやうが溝の中に陥らうが平氣である。かくしてアルコールによつて人の人たる一切の尊いものを失ふに至るのである。この價が年々十五億圓拂はせられるのである。粒々辛苦して得た僅かな収入をかうした事に浪費する事を考へると、農村にとつて酒ほどの大敵は他に見出せないのである。而して酒は前述の如き害にとどまらずして、更に第二の國

民の母たるべき若き娘達を犠牲に供する點に至つては人生の最大罪惡を犯すものと云はねばならぬ。即ち酒を媒介としてのみ行はれる全國の醜業婦人の内譯を觀れば、第一、五萬千五百人の娼妓があり、之れに接する一ヶ年二千二百七十三萬人のお客と稱する酒飲の男子がある。娼妓に準ずる八萬五千人の酌婦。七萬五千人の藝妓と十萬の女給合計三十一萬餘人の可憐なる娘達がアルコールの人身御供となつて斃れてゆくのである。(昭和九年帝國統計年鑑)

この遊興費と稱する浪費が十二億圓、酒と合せて二十七億圓實に非常時日本に許すべからざる大問題ではあるまいか。私の友人に山下清君といふ小兒科専門の醫學士があつて、時々この友から小兒の病氣に就いて學ぶのであるが、早死産の大部分が親の花柳病によるもので、生後一ヶ年の乳兒の死亡も亦花柳病によるもの多く、二十歳前後で斃るる男女が體質的に花柳病毒の甚だ多いことを聽かされ、又自分の目撃した數多の實例に依つてそれを確信してゐる。ある花柳病學の

大家が梅毒で斃された事實を見て、ある人々は全く不可思議の様に云ふが、私の考へでは何も怪むことはない、唯その博士が酒を飲んだと云ふ一事で解釋がつくのである。

その博士が酒を飲んで人格の基礎たる意志が痲痺し、遊廓へ行つて、痲痺した感情が醜態を演じ折角の恐るべき梅毒の知識も痲痺しては何の役にも立たず、かうしたことを繰返して居るうちに病毒が頭腦を冒すに至つただけの事である。

私は確信する。國民が酒を飲む間は如何なる騒ぎをやつても決して國は立派にならない。況や農村の不況など救はれる時は來ないのである。

理想の農村と云ふものが言ひ合せた様に禁酒村であると云ふ事實を見てもこれがよく了解出来るであらう。日本でその例を取るらなば既に多くの人々に知られてゐる如く石川縣羽咋郡河合谷村のことである。大正十五年三百軒の寒村で四萬五千圓の學校を建てねばならぬ事となつた。ドコを捜がしても財源が見當らぬ。

其處で最後に氣附いた事は全村禁酒によつて學校を建てようと云ふ事である。三百戸の村で年々九千圓の金を酒屋に拂つてゐる事が明になつた。五年間全村禁酒すれば四萬五千圓の金が浮き出る。ソコで全村一致して禁酒することにした。先づ三軒の酒屋さんが村のため學校の爲めと云ふので皆廢業して呉れた。村會議員も村の衆も嚴重に誓つて五年の禁酒を斷行した。

その結果を見ると、學校が立派に建つた丈けではない。五年間の禁酒のお蔭でこの不況時代に三百戸の内六十戸だけは家屋を新築及び改築するに至つた。郵便貯金も信用組合の出資も倍近く殖え、病人は半分に減じ、死亡率は千人率で約三人少くなつた。この驚くべき事實を見て河合谷村の人々は更に禁酒を續行する事に決したのが既に二年程前である。農村經營の實際問題としてこの禁酒が驚くべき更生力を發揮する事を確認して直に實行に着手しなければならぬ。

(五) 煙草 煙草は年額約三億圓の浪費である。昔から酒と煙草は養生に害あり

と言はれてゐる通りである。煙草は極めて有害で神経系統に害があるばかりでなく、近頃の研究によると癌腫發生の一大原因は酒プラス煙草にあると云ふ事が明になつた。青年時代に煙草を喫み初める時には、非常に苦痛を覚えるのである。蛇さへも怖れるあの激しい煙を咽喉に送るのであるから喫み初めの苦しさは見る目も氣の毒な有様である。涙は出る、咽る、咳は出る、何一つよい事はない。それでも煙草でも喫まないとい人前の人間でない様な迷信から、更に進んでは煙草を喫むことはハイカラであるかの如く考へて得意に喫んで居る者もある。茲で少し煙草の歴史を述べて参考に供する事にする。

四世紀ほど以前に英國の軍隊が北米のアメリカンインディアンと云ふ野蠻人と戦争をした事が有る。その中に戦争は終つた。戦争が終ると軍人位暇のあるものはない。英國の將校が無聊に苦んでゐると、アメリカン・インディアンが不思議な物を喫んで鼻から二本煙をのどかに立昇らせてゐる。これは面白いと思ひ、色々な

物品をやつて煙草と交換してやつて見たが、逆も苦しくて堪らない。涙は出る咳は出る。苦しいだけで煙は一向鼻から立昇らぬ。併し其處は軍人魂で斃れて止むの決心を以つて成功するまで努力して遂に鼻からのどかに二本の煙を立昇らせる事が出来た。

彼は成功したので得意になつて煙草をふかして居ると、それとも知らぬ兵卒がやつて来て將校の懐から煙が上つてゐるのを見て、之れはテツキリ火事だと早合點して傍のバケツの水をいち早く將校の頭から打ち掛けた。

將校はビツクリして

「コラ何をする！」

と叱りつけた處が、兵卒は直立不動の姿勢をして

「閣下が火事でありませす」

と答へたとアメリカの歴史に書いてある。

かくてアメリカインド人より煙草は世界に擴つて仕舞つた。そのため煙草は世界と同じ言葉で、トバコである。それ故にタバコを喫むことはハイカラにあらずして野蠻人の弟子になる事で即蠻カラの骨頂である。

この閣下の火事が日本だけで年々三億近い損害である。煙草から起る病氣と山火事、非常時農村に禁物である。一戸平均二十五圓の浪費である。酒と遊興費と煙草と合せて三十億、實に驚くべき浪費ではないか。ここにもこんな財源のあることを知らねばならぬ。

(二六)燃料 第六に燃料に就いて考察すれば我國程高價な燃料を用ひてゐる國は世界中に其の比類がないのである。北米に比べると約六倍高い燃料を用ひてゐる。我國の山林原野は全國面積の七割五分を占めてゐるに拘らず、この山林の樹木の大部分は薪炭として燃料に用ひらるゝため木材用の森林として永く保存することが出來ない。その爲めにこれ程の山林國でありながら、建築用材を遠く北米より購

入しなければならぬ有様である。之れは實に不合理極る話であつて、かかる状態に至つたのも結局日本人が燃料に就いての研究が出來てゐない爲めで、更に適切に云へば山林の經營をしてゐる農村人の頭腦が發達してゐない爲めである。之れは如何にか早く改良して燃料の節約を計ると共に、山林を木材用の森林を仕立てて輸入を防ぐのみならず良材輸出の計畫まで樹立しなければならぬ。何んとなれば大陸生産の木材に比して大材は取れないとしても品質に於て我國の木材は優れて居るものが多いからである。先年米が一石三十五圓の時五千五百萬石の米が十九億二千五百萬圓であつたが、その年の燃料は二十億二千萬圓程で全國の米の生産高より約一億圓多く費してゐる。今年の如きは、米が石三十圓として七千萬石が二十一億圓であるが燃料は恐らくそれ以上に達するであらう。都會に於ては直接に金を出して購入するため燃料の節約は考へて居るが農村に於ては未だ昔ながらの燃料の用法を改めない處が多い。農家の大多數では爐に自在鍵を掛け鍋

や鐵瓶を吊して、下からドンドン火を燃してゐる。この用法は神武天皇時代と餘り變らないと思はれる。竈に於ても同様である。主として燃料の不始末より生ずる火災は昭和七年の統計によると一萬八千五百一回火災家屋三萬六千七百五十八戸損害六千五十三萬圓を失つてゐる。かくの如き有様で燃料の浪費は農村に於て最も甚だしいのである。

岡山縣の或る村では「農村の改良は竈より」と言ふ標語で竈を改良したと聞くと眞に尤なことと首肯される。然らば如何に改良するかと云へば私の考へでは朝鮮で用ひてゐる溫突（オンドル）式が一番燃料が經濟であるばかりでなく極めて合理的であると信ずる。第一氷點下三十度といふやうな寒い北鮮西鮮地方に於ても三度の炊事の時火を焚くだけで、暖房の爲めには殆ど燃料を用ひないで冬を過すことが出来る。而して炭酸瓦斯も生ぜず、煙も入らず火事になるといふ心配もない。（朝鮮には殆ど火事はない。あればそれは内地人の家である。）室内は常に

六十度位の溫度を保つてゐるために、朝鮮の普通の家では寒夜にも皆蒲團なしで着の身、着の儘、木の枕で、（下から熱が來ない様に）家族中が心地よく眠る事が出来るのである。日本の蒲團と云ふものは如何に不便であり不經濟であり厄介であるか解らない。冬の夜泊客の二三人もあれば普通の家では皆困つて仕舞ふ。他家から借りて來るか、借りられなければ家族が寒い一夜を明さねばならぬなどと云ふ事も屢々經驗する處である。而も僅かなる燃料は加利性の肥料即木灰となつてオンドルの床下一杯に積り、貧しき朝鮮の農民は人糞を肥料に用ひない爲めに、それを取り出して唯一の水田肥料として用ふるのである。而もオンドルの燃料の多くは黍殼牛糞芝草の様な日本に於ては燃料とも思へぬものを用ひてかくも有効に役立ててゐる。オンドルの構造は九尺四方を常法として地伏の下を石で積み内部には二尺間隔位に高さ一尺五寸位の煙道を石にて築き上げ、根太の代りに疊の下に床板を張る様に煙道の上に薄い石板（ソゲ石）を一面に渡し、その上に荒壁を

五寸位に厚く塗り、焚口は勝手に、煙の吸込をよくするために、土間より五寸位下げて拵へる。焚口の上を竈となし炊事をする事が出来る。その煙は吸込まれて煙道を通り、上の石板と壁を焼く、その熱にて乾いた頃荒壁の上に中塗をなし、それが乾くとその上に油紙を張れば完成するのである。かくすれば部屋内に塵も立たず、極めて衛生的で煙は煙道に灰(加里肥料)を残して最後に煙突より外に出るのである。構造費は日本の疊の部屋を作るのと殆ど同額で永久に疊替の必要がない。只朝鮮的オンドルの缺點は天井の低いのと換氣の不完全とである。之れは呼吸器の爲に悪いから、天井は八尺位の高さとし換氣法を講じ、棚を拵へて鉢に水を入れ白布を吊して水蒸氣の蒸發を計り室内の乾燥を防げば衛生には差支ない。我國農家に於て若し之れを用ふるならば燃料は恐らく三分の一で事足り、尙山林は木材として永く成長を樂しむ事が出来て、燃料の節約と加里肥料を取る事が出来るのである。

(七)肥料の自給 第七、肥料の自給に就いて考察すれば肥料は我國人口一人當り年額十圓を要し農村民一人に對しては人口の半數として廿圓當りを要する。而して總額約六億の肥料中自給して居るものはその半額の三億である。後の三億は農家の懐より支出されるのである。

農家經濟の立場から云へば肥料の問題は最も大きなものの一つである。而して農家に於いて研究をなせば、肥料は殆ど自給する事が出来るのである。即ち豚、牛、山羊、鶏等の家畜家禽を飼ふ事によつて窒素肥料磷酸肥料が得られ、燃料よりの木炭によつて加里肥料が取れる。之れを配合すれば完全肥料となり、自給出来るばかりでなく充分に施肥する事が出来る。丁抹などの瘠地を肥やしたのは殆ど家畜肥料によつたものと云ふて差支ない。かくして三億の、自給肥料が得られるのである。

(八)冠婚葬祭 第八、冠婚葬祭のうち現今問題とすべきは主として結婚費であ

る。文明の進むに従ひ結婚費用の少なくなるのが世界各國の情勢であるのに、我國は之れに反比例して年々歳々結婚費は嵩んでゆくので、之れを觀ても我國の文明は似而非なる皮相の文明である事を暴露してゐる。

英佛獨の三國は社會常識として年收の一割即ち千圓の年收の家では結婚費は百圓で済むのであるが、北米に於ては二百圓を要し、伊太利は四百圓、スペインは五百圓、ロシアは八百圓、日本は年收の二十割の二千圓を要すると云ふ始末である。更に支那の支那は三十割の三千圓を要する。支那人の生活を觀てゐると實に感心すべき幾多の事柄がある。一日働かざれば一日食せずと云ふ格言をその通り實行してまで金を蓄へる事に熱注してゐる。それ程苦心して蓄へた金は何に費ふかと云へば結婚に用ふる爲めである。支那人は生活を保證するだけの金が出来なくて結婚出来ない事になつてゐる。前半生は結婚の爲めに努力し後半生は親の葬式の爲めに努力する。かくて支那人の大多數のものは國家の事も世界の事も考

へず結婚と葬式、葬式と結婚、かくて人生は終つてゆくので、文明がサツパリ進まぬ。日本も結婚費用を多額に要する點に於ては支那のお次である。かくの如くにして目出度かるべき結婚式も費用の嵩むために將來の不幸を齎らす事が決して少なくないのである。結婚費が負債となつて遂に悲劇を演ずるに至る者さへある。我國に於ては年々五十萬組以上の結婚があつて五億からの結婚費用を要してゐるが、之れを英佛獨並に年收一割を以つて舉式するときは四千萬圓で済むことになる。さすれば四億六千圓の節約が出来る。

この外尙幾多の節約消費經濟に於て成し得るのであるが以上八項目の消費經濟だけで、

- 一、玄米食で 十二億六千萬圓
- 二、副食物で 十七億五千萬圓
- 三、酒で 十五億圓

- 四、遊興費で 十二億圓
- 五、煙草で 三億圓
- 六、燃料で 七億圓
- 七、肥料で 三億圓
- 八、結婚費で 四億六千萬圓
- 合計 七十四億七千萬圓也

以上の如く此の消費經濟は法律の改正を俟つ必要もなく新に事業を興す譯でもなく別に大した資金を要するでもなく、善しと信ずる事を斷行することによつて今日より直に効果の現はれてくるものである。特に利害一致せる農村に於て申合せ、組合を作り洩れなく之れを實行する事が出来れば、これだけでも年額七十餘圓が國民の所得となる、殊に農村に於ては主として自家生産物の經濟的消費法によつてこの驚くべき財源を見出し、自力更生の實を擧げ得ると確信するのである。

る。

私は普く我國の農村に於て特にこの點に着眼して、一日も早く實行の緒に着かれ着々とその効果を擧げられんことを、一家のため、一村のため、一國の爲めに望んで止まない次第である。

第四節 農村の財政

現今農村疲弊の重大原因の一として、農村負擔の過重なることは上述の如くで今や町村長會に於て公租公課の輕減運動が起つてゐるが、それと同時に近年に於ける農村財政の極端なる膨脹が今日の窮狀を招いた一大原因である事も否まれな事實である。

町村歳出の各費目 (昭和七年度)

教育費	一九四・六九三・四七四圓
土木費	三二・三三七・六八〇圓

基督教農村文化の實現

公債費	四一・三〇四・一七七圓
衛生費	二五・三三九・五四八圓
勸業費	九・一四一・一二七圓
社會事業費	一一・二〇六・一三六圓
電氣及瓦斯事業費	二・五二二・八五五圓
役場費	七一・五四四・四四八圓
會議費	二・六三五・六二四圓
警備費	七・〇九六・一五三圓
諸税及負擔	一・八二七・九四二圓
積立金及基本財産	一五・四〇八・〇九六圓
助成費其の他諸費	三六・九二五・五二七圓
合計	四五一・九八二・七八七圓

以上の統計を見れば昭和七年度に於て我國町村の歳出は四億五千九十八萬餘圓の巨額に上り、そのうち教育費は一億九千四百萬圓餘で、歳出總額の四割三分強を占めてゐるのであるが町を含まざる純農村の教育費は更に高率を見るのである。而して歳出總額と教育費との比率は左の如くである。

町村の歳出總額と教育費

	歳出總額	教育費
明治四十年度	八三・一七四千圓	三五・〇三〇千圓
大正元年度	一二二・一五五	五〇・三九六
大正六年度	一四四・一〇五	五七・五七三
大正十二年度	四二六・〇一九	二〇一・七五四
昭和元年度	五〇〇・二七九	二三四・三二九
同 二年度	五四〇・七七七	二四三・六〇〇

農業經濟問題

基督教農村文化の實現

同	三年度	五六〇・八二一	二五七・一四〇
同	四年度	五二九・六〇九	二三六・二一八
同	五年度	四九八・一四七	二一一・七四〇
同	六年度	四三七・六五四	一九一・四〇七
同	七年度	四五一・九八二	一九四・六九三

右の如く町村財政中の最大費目たる教育費は如何にして斯くまで激増したかを調べて見ると、第一は農村の負擔力を考慮する事なく、學校校舍及びその設備に巨費を投じた事と、第二は多額の費用を投ずる事が教育の効果を擧げ得るとの誤解より生じたものであつて、農村教育は都市教育と全く事情環境を異にし、農村獨特の教育を施すべきであるに、その重大事を忘れて只管に都市教育の模倣をなした事が今日の弊害と困難とを招くに至つた一大原因である。

近來此の弊を打開するために民間に於て盛んに勃興し初めたのは、村塾風の農

村特種教育であつて、全國にその數百數十校を數へるに至り、文部省の教育に儻らぬ農林當局も農村教育に進出して各府縣に農民道場の施設促進を計りつゝあるも同一原因に基くものである。

立派なる校舍は農村教育を活かす根本の力にはならない。山聳え水流れ日輝き風薫る大自然のうちに、新興農村のために献身せる教育者があれば、その感化は到底校舍設備などの及ぶべきものではない。丁抹にては農村教育の中心たる國民高等學校が、質素なる校長の住宅内に存してゐるのであつて、我國昔時の村塾と殆ど同一精神と形體を有してゐる事は大に参考とせねばならぬ。特に金錢收入の少ない農村に於ては教育費の輕減を計りつゝ、更に農村振興に適切なる精神と實力とを養ひ得る教育方針を樹立せねばならぬ。尙農村財政中考慮すべきは役場費である。

教育費に次げる大費目は役場費で、昭和七年度に七千一百餘萬圓を費してゐ

る。現今地方町村役場の事務中純然たる地方事務は割合に少なく、國家の委托事務が非常に繁多なのである。之れは委員制度を設けて民間有志の手に委ね、農村自治體の事務を思ひ切つて簡捷にし、次章農村政治の項に述ぶる如き獨乙併丁抹等の理想村に見る様な村政を取るならば、農村財政に餘力を生ずる事大なりと信ずるのである。

第五節 農村協同組合

(一)組合運動の重要性 今日、基督教の立場から農村問題並びに農村傳道を考へる時に協同組合運動が、いかに重大なる使命をおびてゐるかと思ふ事を思はざるを得ない。一言にいへば、過去の經濟問題に於て資本主義が大いなる貢獻をなしたが將來に於ては、世界の經濟組織は、共產主義か、組合主義かそのいづれかを選ばねばならぬことは、あきらかなる事實となつて來た。何んとなれば、少數資本家の利益を根底とした營利經濟組織が、今日、世界の經濟難をもたらした最大

原因の一となつて居るので、この弊害を、根絶する運動として現はれたのが、私有財産制度を否認する共產主義と、私有財産は認めながら、生産者本位の經濟組織より、消費者本位の經濟組織に變革しようとする協同組合運動との二つである。個人の自由を認めず、組織制度の壓力をもつて、暴力革命に訴へても、無産者專制政治を樹立しようとする共產主義と、人格の獨立と自由を尊ぶ基督教が、一致しないことは極めて明かなる事實である。

是に於いて、現代社會の經濟問題を、基督教の立場より解決せんとするには、個人の自由を認むると共に、互に同情と理解のもとに、自愛と他愛とをかねそなへ、人類に生活の安定を與へ、平和を世界にもたらし得るこの協同組合運動によることが、最も適切にして、最も有効なる道であると信ずるのである。されば吾等同志はこの協同組合運動を熱心に研究し、身を挺して、この運動にあたる者を養成し、社會に生活安定の希望をいだかしめ、徐々に萬民救済の計畫をたてねばなら

ぬ。只、此の運動を達成するには、蛇の如くさとく、牛の如く忍耐つよく、蜜蜂の如く忠實でなければ、功を奏することがむづかしい。それ故かかる運動に適する人物を養成する教育機關を設けなければならぬ。

農村に於ける協同組合運動としては、我國では産業組合法によつて實行されてゐるのであるが、一萬四千餘の組合が農村を救ふ實際上の力となつてゐない爲めに、今日の如き農村の不況を來たしたので産業組合が本來の使命を充分に果して居れば、決して今日の如き窮狀に陥らないで済んだ筈である。何となれば産業組合特にライフアイゼン式の農村産業組合が發達すれば、決して農村が困ることはないのである。それにも拘らず、我國農村の産業組合が今日の如く無力なるは何故であらうか。その原因を調べて見ると、日本の産業組合は農村から生れたものでなく、政府より提案して天降り式に作られた爲めに、農民達によく理解されてゐない爲である。更に適切に云へば組合教育と云ふものが施されてゐないのである。

る。のみならず、政府の當局者も産業組合の成立に就いてその根本要件である宗教的信念を土臺とした兄弟愛を閑却して、唯經濟運動として實利的にのみ之れを考へて來た處に、此の運動が本來の使命を發揮し得ない原因が潜んでゐるのである。

而して從來農村に於ては、生産方面の産業組合運動は割合に閑却されて、信用組合と購買組合の方面に力を入れて來た。そして信用組合も資本主義化して資力の乏しいものを助けるよりも首腦者側の金融機關の如きものとなり、購買組合も肥料の共同購入や盆正月の季節的消費を取扱ふ程度で、農村に活氣を與へるやうな積極的生命を持つた活々とした運動をして居る組合と云ふものは全國的にも誠に稀であつて、却つて産業組合特に信用組合のため迷惑を蒙つてゐる村の方が遙に多い現狀となつてゐるのである。

茲に於て實際運動として効力のある組合運動は如何にすれば實現出来るかと云

ふ問題が起る譯である。此處に來ると經濟問題と云ふものは決して經濟的方法だけで解決出来る問題でないことを知らねばならぬ。何故かならば經濟に對する我々の考は更に深い人生觀社會觀より出發してゐることを知るからである。

假りに多年の不況時代が去つて、空前の好況時代が廻つて來たとすれば、國民の生活はどんな風に變るであらうか、初めの中こそ多少警戒をしてゐるであらうが、好況が相當に續くことになれば、國民の大多數は享樂的精神の囚となつて、快樂の追及にこれ日も足らぬ有様になる事は火を見るより炳かな事である。好況になれば有頂天になり、不況になれば直に悲鳴を上げると云ふ有様では、子供の様な状態であつて、堅實なる國民生活と云ふものはその何れにも見出す事は出来ない。そこが産業組合の根本に、人生觀の確立を必須の條件とする所以である。丁抹などに於て産業組合運動が驚くべき強固なる發展を遂げてゐるのは、彼等農民の間に宗教上の信念を根底とした崇高遠大なる人生觀の一致を基礎として、社

會に兄弟愛の理想を實現せんとする實際の方法として産業組合運動を續けてゐるからである。

それ故に協同組合運動を起さんとするものは先づ徹底的に組合教育運動に全力を注がねばならぬ。經濟の安定の根本に人生觀の安定がなければならぬ。

人生觀の安定とは我等の地上の存在が自己の幸福の爲めのみでなく、他人の幸福の爲め理想社會建設のため、更に宗教的に言へば地上に神の國を建設する事になると云ふ強い信仰の上に立脚して、その實現のためには如何なる犠牲をも拂ふことを厭はぬ決心のあるものにして、初めて産業組合運動を成功せしむる資格があるのである。

(二)生産組合 かゝる精神の下に農村に協同組合運動を興すとして第一に着手すべきは消費組合運動よりは生産組合運動であらねばならぬ。何故ならば農村は生産が主であつて消費を主としてゐないからである。

シャール・ジードが「消費組合は都會で生れて都會で育つたものである。農村は生産地であるから生産組合から初めよ」と言つたのは此の事である。

生産組合と云つても極めて範圍が廣く地方によつて事業の性質が異なるが、要するに農村の經濟生活を安定させ得る方針の下に適當な事業を撰ばねばならぬ。地方によつて各異なる爲めに何處にも適切な例を上げる事はむづかしいが原則としてその村の村是とも云ふべきものを生産の方面から確立する必要がある。

安部磯雄先生の「産業奉還論」を見ると、伊豆の白濱村——下田港より一里隔りし東海岸——が徳川時代には同村海濱の天草を領主水野出羽守が専有して居つたのを維新後村有としたのが元で、之れだけで十八萬七千圓の賣上を得、純収入の八割を各戸に對し平等分配をなし、一割は村費に繰り入れ六分は基本財産として四分は育英資金として積立て、四百六十六戸の村が日本一の模範村となつて昭和六年の不況時に於ても配當額は平均一戸當百三十五圓に達し、村民は殆ど村

税を納めないのみならず、村役場から毎年數百圓の配當を受けると云ふ事が記されてゐる。

これなどは特別の例であるが一村が協力すれば生産、消費兩組合運動によつて數萬圓は如何なる村でも必ず得られるのである。勿論一朝一夕に實現出来るものではない。白濱村が今日に至るまでには五十年以上の努力と歲月を費してゐる事でも明かである。

更に一例を上げると青森縣弘前地方の林檎の如きも適例である。同じ青森縣でも東部地方は飢饉で悩んでゐるのに、西部弘前地方は林檎の収益が一年中あるので農村の青年は年中懷中に小遣があつて緊張しないで困ると同地の牧師が話されてゐた。これなど地理的關係ばかりとは云へない。七十年前には東部の方が西部より遙かに富んで居り従つて生活状態も樂であつたのに、七十年後には全く異つた状態となつたのは、一に弘前地方は明治の初年より、基督教の信仰を土臺とし

て人物教育を施し、地上を神の國としようとする人生觀を懷いた東奥義塾出身の兄弟達が一致協同して生産組合運動を興し「青森の林檎」と稱する日本中に轟き渡る處の産業上の成功を遂げるに至つた爲である。

(三)消費組合 凡そ忠實にやれば購買消費組合位確な經濟法はないのである。例へば五百戸の村が、一戸平均三百圓の物資を購入するとすれば年額十五萬圓となる。之れを五百戸が個々別々に時間を潰して町へ買出しに行つたのでは、一文も手許に残らないが、消費組合を設けて互に出資し役員が代表して、製造元や大問屋より一手に購入すれば、總て物品が一割以上安く購入出来る。その利益を出資金として積立れば一村に年額一萬五千圓の餘裕が年々生じて積立金となり、之れが低利に村の金融組合に融通され、生産組合に利用せらるれば二十年三十年の後は非常なる働さを爲すに至る。

何によらず、村の仕事は少なくとも二、三十年かかつて大成させる覺悟が必要

である。

(四)共済互助組合 消費組合と互助組合は共に相互扶助と社會連帶から生れた二人の兄弟であるが、互助組合は人類の生命を脅かす危険即ち病氣、傷害、老衰、死に對する防禦の役を務め、消費組合は新しき經濟の方法によつて日常生活の必需品を満たす使命をもつてゐるのである。

註一。昭和十年九月十三日新潟縣新發田町が約千戸焼失した。その原因はある人が遊興の後煙草を喫みつゝ眠つたその火より出火したのが、この大事を惹起するに至つたのである。

註二。組合結婚により月額三十錢乃至五十錢の組合費を納めて舉式者に定額の結婚費を提供する事は最も實行可能の良法である。京都府何鹿郡物部村宇白道路に於ては公會堂で舉式をなし共通の式服を作り置きて之れを用ひ、結婚のために衣類を拵へずこの代りに貯金帳を與へる定めになつてゐる。

第四章 農村社會生活

第一節 農村の政治

我國に於ては古來大小に關らず政治は祭事で即ち神に仕へる事であつて。

皇室に於かせられても政治始の御式に於て第一に行はせらるゝ事は神宮の事を奏し、次に各廳の事を奏すると云ふ次第で、神の御心を安んじ悦ばせ奉る事が政治の第一義で、之れを祭政一致と云つて居る。

農村に於ては協同一致融和して神に仕へ、鎮守の氏神中心に村政を營むことを根本として居つたのである。

今日此の古來の美風を顧る時、農村政治に就いて大に反省を促されるのである。現代の政治は全く神を忘れた人間中心の政治であつて、空前の不況不安の社會を現出したのも、茲に根本的缺陷を見出し得るのである。

神中心の政治とは如何なる政治であるかと言へば、村民は皆神の子であつて、一人残らず親神の恩惠の下に、清き樂しき恵まれたる生活を營むことが出来る政治であらねばならぬ。新約聖書から理想的農村政治の實現された有様を引用すれば

「我また新しき天と新しき地とを見たり……神の幕屋、人と偕に有り、神、人と偕に住み、人、神の民となり、神みづから人と偕に在して、彼等の目の涙をことごとく拭ひ去り給はん。今よりのち死もなく、悲歎も、號叫も、苦痛もなかるべし。視よ、我れ一切のものを新にするなり」と。(ヨハネ黙示録二十一章一―五)

以上の聖句が農村政治の根本精神を言ひ表はしてゐるものと言ふ事が出来る。現代の農村政治は餘りに形式的であり複雑繁鎖である。曾て約三十年前東京に於ける自治協會主催の許に、世界中の模範町村を研究視察して、月一回宛學士會館内に其の發表會があつた。其の當時世界に於ける模範村として獨逸のある村の現

狀が紹介されたのを記憶してゐる。それによると日本の某法學博士がその獨逸の模範村を視察にゆき、其の村に入つて村役場の所在を尋ねた處が、村の人が言ふには「此の村には役場はない」との返事である。「それでは村の事務は何處で扱つてゐるか」ときくと、「村長の家で扱つてゐる」と云ふ。それから村長の家を訪ねて行つて見ると、村長は不在である。「何處へ行つたか。」ときくと「畑に行つてゐる。」との事である。そこで折角視察に來たのだから夕暮までその家で待つてゐると、漸く村長が馬鈴薯を入れた籠を背負つてゐる年頃の娘と一緒に歸つてきた。其處で來意を告げると村長が話された事は、此の村が模範村であるとすれば何にも手數や費用がかからぬと云ふ處であらう。村役場もなし、隨つて役場吏員もない。一人の村長も畑で働ける。村の事務は小學校の先生が時々放課後に處理してくれる。そして謝禮は年末クリスマス（日本で云へば正月の）餅代位を上げて濟ませて仕舞ふとのこと、村長は勿論無報酬である。その上今、薯を背負つ

て來た娘は翌日嫁入をすると云ふ話である。婚禮の前の日まで村長の父親と一緒に落着いて労働する娘の事を考へると、靜に神と偕に働く農村の生活が如何にも床しく尊く反省させられるのである。

更に世界の模範村と言はれてゐる丁抹の有様を尋ねて見ると、理想的農村政治の如何なるものであるかを髣髴することが出来る。村長は村民が選舉し、選舉された農家の主人は自分の居間に、小さな二ツの金庫とテーブルを一個持つだけで村の事務は平常は村長が一人でやる。多忙の時だけ村の代表者が二三人手傳に來る。村駐在の巡查も村の人望家が村會で選舉されるのであるが、事故がないので常に百姓を營んでゐる。事ある時には作業服の儘帽子だけ金モール入の警官帽を戴いて木靴のまま悠々と出かける。時あつてか村長と巡查を兼務してゐるものもあると云ふ有様である。

現在我國農村政治の事を考へて見ると、古來の神に仕へる祭事の精神を復活さ

せて「人は都會を造り、神は農村を造り給へり」と云ふ様な神の恩寵に満たされたる農村政治の實現を期さねばならぬが、それには神を村民全體の父と崇め尊み、村民も互は此の父なる神の前に兄弟姉妹であり、一村は一家である。一家互に喜憂を偕にする基督教信仰の精神に満たさるるにあらざれば、眞實の意味に於ける祭政一致の農村政治は實現されないのである。

獨逸や丁抹の理想的農村政治の實現されてゐるのは、數百年來養はれたる基督教兄弟愛の精神を根本として成長發達したのであることは明である。

我國農村政治の理想化を希ふものは此處に深く留意せねばならぬ。

第二節 農村の家庭

現在我國農村の家庭問題を考へる時に地方によつて勿論相異はあるが、先づ大體に於てあらゆる農村の階級即ち地主、自作農、自小作、小作農を通じて一様に家庭生活が憂鬱な氣持に襲はれてゐる事である。言ふまでもなく經濟的壓迫が全

階級に押寄せて居る爲めである。

農村生活が長閑で朗かである爲めには、富はなくとも經濟的壓迫がなく、生活の安定してゐることが根本の條件である。然るに前述の如く農産物の暴落により驚くべき減收に對して、多額の負債とその高利と、過重なる公租公課及び社會的負擔のため、如何に暢氣なる農村人と雖も長閑でも朗かでもあり得ないのは當然である。兩親の憂鬱なる生活が、家庭生活に及ぼす影響を考へると、此處に深刻なる問題が生れて來ざるを得ない。

長男は我國の習慣として父の負債とあらゆる家長たる負擔とを背負はねばならぬから、配偶者を選ぶにも、頭腦の鋭敏な優れた勞働力のある嫁を探がしてゐるが、頭のある優れた娘達は農村生活を厭うて都會へ出かけてゆく。先般丹波地方を巡つた時、ある村の模範青年が演説して叫ぶには「自分は困難な農村に踏み止まつて郷土愛、農村更生の爲めに奮闘してゐるが、三十歳になつても適當な配偶

者を與へられないのでは到底辛抱が出来ない』と訴へてゐた。此の絶叫は嘗に丹波地方に限られたものでなく恐らく全國農村共通の現象であらうと思はれる。

二男三男以下のものは昔は相當な農家では田畑を分け新宅を作つて分家させ両親の近くで楽しい新家庭生活も營めたが、今日は殆ど新宅分家と云ふものを作る餘裕が無くなつて、上級の學校へもゆけず、偶々専門教育を受けても就職の出来ないものが多く、都會も失業者で都門閉め切りの有様である。農村に於ける二男以下の問題は實に農村のみならず國家に取つても重大なる問題となつてゐる。

只農村に於て朗らかな生活を樂しんでゐるものがあるとするれば、小學校教員を婚に貫つてゐるか、息子が教員して、家族が農業を營んでゐる家庭位のものである。一町歩程の田畑持で働いてゐる自作農が、僅かに年收純益は四百圓程度であるのに二十二三歳の師範出の息子が年六百圓の俸給を貰つてゐると云ふ有様である。凡そ今日農村に於て、一般の不況情勢に伴はないものは小學校教員の収入で

ある。無産者教員にして年功者は、月給八十圓百圓百二十圓と云ふ報酬を得て居るのである。併し小學校教員でも既に報酬が拂へなくなつた村もあり、拂へなくなりつゝある村も多くあり、聽て此處にもむづかしい問題が起つて居るのである。

耕地反別の狹少、經濟組織の變遷、農村人口の増大、收支の不一致生活程度の上進、負擔増加、農業經濟組織の不完全、飲酒の惡習、冠婚葬祭の冗費、知識の缺乏、人材の拂底等々が農村の家庭生活をいよゝゝ困難憂鬱に陥らしめてゐる。

かうした行詰つた農村の家庭生活に唯一の活路は新農村中心社會を實現せんとする信仰生活だけである。若し我國農村の兄弟姉妹の間に、數多の難關が横たはつて居ても、神が遂に基督の十字架の贖を通して神の國を建設し給ふ事を信じ、丁抹農村の如く亡國に等しき危機より、基督による兄弟愛の信仰により立派に更生して理想の農村生活を實現した事に、共鳴し、我國農村の家庭に於ても天父を信じ、基督の罪よりの救を信じ、聖書を學び、祈りを共にし、感謝讚美の聖歌を合

唱して地上に、農村に神の國の到來を信じ神中心、農村中心社會建設のために、犠牲献身の精神を發揮する事が出来れば、重苦しき不安の中にあつても將來に對し希望を抱いて農村生活を營み得るのである。

かく信仰と希望と愛を神より與へらるることによつて、隱忍持久遂には農村家庭問題を解決することが出来るのである。

第三節 農村の社交

農村の社交は冠婚葬祭を中心としたもので、曾てはそのいづれもが、淳朴、悠長、親和等の特徴としたもので、農村生活に懐かしい潤を與へてゐたが、今日はそのいづれもが昔の實質と精神を失つて、現代にそぐはないものとなり、唯形式残骸だけが、多くの弊害と共に遺つてゐると云ふ有様である。

昔時の木訥な習慣は打ち壊されて、結婚式も葬式も都會風を模倣して華美になり、身分も格式もなく、一樣に派出好みとなつて、喜憂を共にするよりも互に負

擔に苦しむといふやうな状態で、未だ覺醒し切らない農村農家に於てはかかる社交の重荷を持ち廻して歎息し合つてゐるのである。

親戚古舊が悠々と互にお客となりて長閑な親睦社交を楽しんだ『村の祭り』が僅かに都會では民謡などに藝術化され持て囃されて残つてゐるが、現在に於ける『村の祭り』と云ふものは昔の様な獨特な味を失つて、祭りの日には村の青年男女は打ち連れて町の映書館にいつて都市中心の映書に憧れの一端を満足させる事が唯一の樂となつて、鎮守の森の間の抜けた太鼓の音は小供の遊戯に任せられてゐる有様となつて仕舞つた。

全國二百萬戸の養蠶農村は二回三回の春夏秋蠶の間に、大麥小麥の收穫より田植除草を行ひ、祖先の靈を祭る孟蘭盆も、初秋十五夜祭も、秋祭りも、多忙の間に、形ばかりの、魂の抜けた行事を繰返してゐるに過ぎない。今日の農村には時代に適した有意義の社交がなくてはならぬ。それには從來の個人的なものでは

く、集團的な、而も農村生活に應はしいものに改善する事が大切である。

第四節 農村の保健

農村保健衛生の事を考へると、從來農村は都市に比して健康地であると信ぜられてゐた。清澄な空氣、美しい日光天然の恩惠豊かな農村はなるほど健康地の様に思はれるが、近年都市と農村との死亡率及罹病率調査によると、殆ど反對の現象を呈する様になつた。其の根本原因は第一國家に於て國民の保健衛生施設を實行するに當つて、先づ都市中心に力を注ぎ、都市のために各専門家の研究調査に基づき、衛生保健状態改善に關する積極的方針を樹立し、飲料水に就いても都市水道の爲めには年々百五十萬圓内外の補助をなし過去四十五年間に三千七百萬圓を投じてゐるが、農村に對してはこの點も何等の施設がない。又結核豫防方法の如きも都市人口五萬以上のものを目標として立法をなし、年々療養所設立に對し三十萬圓以上の補助をなしてゐる。その他施療病院、無料産院、衛生保健展覽會

等々様々の施設をなし、着々その実績を擧げると共に、市民は保健衛生の思想も農民より發達して居り、且つ醫療機關も備はり、富の程度も豊であるため、改善に努力する結果として、死亡率、罹病率の減退を見るに至つたのであるが、農村は都市に比して國家の保健衛生に對する改善の施設が甚だ不充分で、各都市に於けるが如き何等見るべき機關が設けられて居ない。且つ農村の保健衛生の研究調査及施設は都市に比して頗る困難であるがために自然手後れにもなつてゐるのである。農民の死亡率罹病率の高いのは、寄生虫病、地方病が農村に多い上に、榮養の不完全、過勞、住居の不衛生、衛生思想の幼稚、醫療機關の不充分、貧困等が重つて今日の如き遺憾なる状態となつてゐるのである。

最近十年間の都市と農村との死亡率の比較(人口千につき)

年次	都市	郡部
大正十一年	110.64	111.73

大正十一年 110.64 111.73

基督教農村文化の實現

年次	都市	郡部
同十二年	二三、五〇	二三、六一
同十三年	一九、三五	二一、六七
同十四年	一八、九〇	二〇、六四
同十五年	一七、六八	一九、六〇
昭和二年	一八、〇二	二〇、三三
同三年	一七、六〇	二〇、六一
同四年	一七、六六	二〇、七九
同五年	一六、四六	一八、七一
同六年	一七、四七	一九、四八
平均	一八、七三	二〇、七二

乳兒死亡率比較 (出生千につき)

大正十一年	一七八	一六五
同十二年	一九四	一六〇
同十三年	一六三	一五七
同十四年	一五一	一四一
同十五年	一四二	一三六
昭和二年	一四六	一四一
同三年	一三五	一三八
同四年	一四一	一四二
同五年	一一七	一二五
同六年	一二七	一三二
平均	一四九	一四四

以上の統計表を見ると、最近十年間に於ける都市の死亡人口は千につき一八・

農村社會生活

七、郡部は二〇・七二で町村の死亡率が著るしく高い。乳兒死亡率に於ては十年前は郡部の方が低かつたのに最近では都市の方が低くなつて來てゐる。

茲に於て如何にすれば農村保健衛生状態を向上せしむる事が出来るかと云ふ具體的問題が起つて來る。今日の醫學は治療醫學即ち病氣に罹つた者を治療するのよりも豫防醫學即ち病氣に罹らぬ様にすることを第一とするのであつて、一度病氣に罹れば精神的及經濟的に一家にとつての非常な打撃であつて、病氣の爲、費す金錢は徹頭徹尾、苦痛憂鬱悲嘆の伴ふ散財である。最近内務省の救療事業の調査によると、農村人死亡一人に對して罹病者は四十二人ある割合となり、北海道に於ける屯田兵農村の調査によれば死亡一に對して罹病者五十七人強と云ふ割合となつてゐる。我國農村に於ては醫療費一戸平均三十二圓五十二錢（内閣統計局昭和四年調査）を要し全國農家醫藥費一年一億三千七百萬百程費す事になつてゐる。

故に農村に於ける豫防醫學の實踐的方法として現に歐米各國で實行を初めてゐる如く各農村に「健康指導所」を設け

- (一) 母性保護
- (二) 小兒保護(學齡前及學齡兒をも含む)
- (三) 通俗衛生教育宣傳
- (四) あらゆる「村の衛生問題」に關する講演
- (五) 救急處置の設備
- (六) 醫療設備

等に就いて親切熱心なる信仰心深き醫師を中心として之れが實行に當る事となれば、村民の健康を改善する上に非常なる貢獻をなす事が出来るであらう。

第五節 農村の娛樂

過去の農村生活には詩的情趣に溢れた娛樂が豊に行はれてゐたが、現在の農村

には村民の慰安休養を與へ心を和やかならしめ、農村生活の絶ち難き憧れを懐かしむる様な娛樂が段々に影を没して、農村生活は無味乾燥なものとなつて來た。農村青年男女をして、郷土に落付けず離村の心を抱かせる一つの大きな原因は、現代の農村青年男女を惹きつける娛樂のないと云ふ事實をいなむ譯にゆかない。

農村娛樂と郷土娛樂と新興娛樂とがある。郷土的娛樂は盆踊、村芝居、草角力、俚謠などが代表的のものであるが、何れも現代農村の娛樂としては從來の如き魅力を失つて、青年男女を惹き着けるに足らない。茲に於て新興娛樂の發達を要するのであるが、大衆的魅力あるものは、男女共通の娛樂となり得るものが適當である。現今農村新興娛樂として、靜止のものでは、ラヂオ、蓄音器、映畫等であるが、かゝる受動的のものだけでは青年男女の充分なる満足を買ふ事はむづかしい。更に積極的に協同動作による新興娛樂が必要である。而して個人的娛樂と協同娛樂とを相兼ねられるものが理想的である。之の二點を兼ねたものとして

の第一は聲樂である。聲樂の内容は種々様々であるが、一人でも、團體でも、男女共同でも歌ひ得るものは神を崇め尊む讚歌である。朝夕、春夏秋冬、勤勞、結婚、葬式、親睦、送別、歡迎、喜憂哀樂、何れの時にも歌ひ得るものとして讚美歌に優るものはない。

只讚美歌を農村娛樂に數へるのは不敬虔も甚だしいものと云ふ非難が起るかも知れないが、元來歌の初め、音樂の初めは主として神を歌ひ讚美する事を起源としてゐるので、之れも古に還元して聖き尊き温き力強き歌を、現代の言葉にて共に歌ふ事が出来れば、理想の農村建設の上に缺くべからざる器となる。聖歌を中心とした農村聲樂の勃興こそ最も大切なる一事であると思ふ。此處に農村教會の一大使命が存するのである。

第二の新興娛樂は音樂と協同動作となり得る體操である。音樂的な律動體操律動遊戲、最も進歩したる丁抹體操の如き、彼の國農村に於ては、映畫や芝居など

の餘興は暇つぶし位に考へられて、男女老幼が律動的な體操を、時の經つのも忘れて熱心に行ふ有様は農村娛樂の上の上なるものと云はねばならぬ。

尙青年男女の新しき娛樂としては獨逸で行はれてゐる渡鳥旅行即ちワンダー、フォーゲルの如き誠に有意義なものであると思ふ。友人仲間が一團となつて天幕を背負ひ、食料を持つて僅の金で旅より旅を續け、各地の視察をなし、時あつてか、他郷農村の兄弟達の手傳を無報酬でやつて奉仕することなど、之れを娛樂とすれば聖なる娛樂と云ふ事が出來よう。

其の他新興娛樂は學問人格趣味の向上と共に數多の新しきものを生み出し得るのである。農村振興の中心生命を發揮せる農村劇の如きを上演すれば娛樂と共に理想の農村建設の上に大いなる刺戟となり得るであらう。

次に各自郷土の歌を作り作譜作曲して歌ふ迄に到れば娛樂の向上も極まれりと云ふべきである。新興娛樂生れよと叫びたいのである。

農村教會は此等新興娛樂の指導には最も適任であり且つ最も責任を感ずべきである。

第五章 農村の教育

第一節 農村問題中の最大問題

我國農村疲弊の根本原因は、前述の如き種々なる原因によるのであるが、以上の困難なる問題を解決する最大原動力は眞實の意味に於ける農村教育の力に俟たねばならぬのである。

然るに現代の如き複雑多岐に亘る國際關係を初め、國家社會の情勢に適應して、極めて困難なる農村問題を解決し行くには、現在我國に於ける農村人の教育程度では、餘りに不充分であつて、今日の實力を以つて、空前の難局を打開し行くことは、不可能に近いと云はねばならぬ。以下我國民全體の教育程度中、農村

基督教農村文化の實現

人の教育程度は如何なる情態であるかを統計に照して見ると、此の非常時を突破するには餘りに教育の不用意なるを知る事が出来るのである。

我國教育費現況（昭和五年度調）

種類	校數	教員	生徒	教育費
小學校	三三・六三三	二三四・九八八	一〇・二二・三六	二七・五五・二四〇
中學校	五七	一三・八四三	三三・五・六九	二四・七六・四〇三
高等女學校	九七	一五・三三	三六・八・九九	二〇・八七・六三
高等學校	三	一・四一八	二〇・五二	五・六五・三二
大學	四	五・九二	四三・二五六	四四・四九・〇〇〇
專門學校	二二	五・〇四	七〇・二四八	二・二〇六・二六
實業專門學校	五	一・九四	二〇・〇三	一一・三三・六六
實業學校	九	一四・五九	二八・八・六二	二四・五〇六・七五八
實業補習學校	一五・二四八	一九〇七八	一・二七・三三八	一五・三二九・三三
高等師範學校	二	一九二	一・七八五	—

女子高等師範	二	一九	八九七	五七・三六
師範學校	一〇五	二九・九二	四三・八五三	一三・八〇一・二九一
臨時教員養成所	一四	三五五	七四二	三六九・九八
實業教員養成所	六	—	三五	一七・二七
實業補習學校	四	九	一・三三	四四・五・四七三
教員養成所	四	九	一・三三	一・三三・六九九
盲啞學校	一五	一〇七	八・一七	一・三三・六九九
各種學校	一・九三	一六・四〇一	二七・二五七	四三九・八七五
幼稚園	一・五二	四・六五七	一三・九五五	一・四六・七七
青年訓練所	一五・六七	一〇三・五九	七九四・一七	四・二六・一〇四
男女青年團體	二八・四七	—	四・〇六・八三二	一・六一九・六七三
圖書館	四・六〇九	—	—	一・七九六・七七
其他	—	—	—	一八・八四七・七四〇
計	四七・四一〇	四六八・三九	一七・八〇・二五七	四七〇・七三六・四六〇

備考經費は國・縣市・町・村即ち官公費にして私費を含まず高等師範の經費は文理科大學中に含む。

農村の教育

以上の統計に基づき更に詳しく農村教育程度を調査すれば、農村人百につき小學校卒業程度のもの九十四強・中等學校卒業五強・專門學校卒業以上のものは零・コンマ四と云ふ有様である。而して九十四人強の農村人は補習學校費及青年訓練費として一人年十一圓四十八錢五年間五十七圓四十錢の教育費である。而も國庫補助はその内僅に四圓九十錢で五十二圓五十錢は村の負擔である。且つ小學校以上の農村教育は男子は晝間勞働して冬期夜間の教授を受けるだけである。

然るに中等學校に學ぶものは一年間生徒一人當り學費百十八圓八十四錢五年間五百九十四圓二十錢で而も悉く府縣の負擔である。諸專門學校高等學校生徒學費は一年一人當四百〇六圓三年間千二百十八圓、大學生は年一人當り千七百三十四圓九十七錢三年間五千二百四圓九十一錢、而して中等學校以上の學生は一意専心勉學に従事して何等他の勞働をする譯ではない。中等學校卒業生は約六百圓の教育費を公費より受け專門學校卒業生は千八百十二圓、大學卒業生は七千十六圓の

教育費を受け、此の外に父兄よりの學費支給を受けて居るのである。農村に留まるものの教育は補習學校約一萬二千校に一萬三千二百人程の専任教師即ち一校當り一人一分強の専任教師が兼任教師と共に百二十萬人の生徒の指導にあたり、一校一年間の校費千〇四十四圓で、一大學生一年の公費千七百三十四圓に比して僅に六割の費用で營まれてゐるのである。

國民教育費以外我國一ヶ年の教育費は約二億圓を要するが、其の内約千二百萬圓が町村の教育費で而もそのうち國庫の負擔は百二十萬圓即ち全額の一割に過ぎず、他の一億八千八百萬圓は殆んど農村に留まらざるもの即ち都市生活をするものの爲めに費さるる事を思へば、教育の隆盛を謳歌する現代に於て、農村教育の、低級貧弱なる實に歎くべき状態にある事を認識せねばならぬ。

試に農村自治團體の代表者を見れば中等學校卒業生は稀であつて、大多數は小學校卒業生に過ぎぬ。此の頃主務省に就いて國家の各種統計を調査した處が地方

農村の基礎調査が正確でない爲に、何れも適確を期し難いと告白して居られた。丁抹の如く農村教育が都市以上に發達して組合組織による正確なる統計表に基づき極めて確實に國情の内容を知り得るのと比較して見て、農村教育の眞實なる發達を外にして眞の充實せる國民生活を實現する事は出來ないと信ずるのである。されば如何にして理想の農村文明を實現するに足る農村教育を實施し得るかを攻究せねばならぬ。

第二節 農村教育の重要性

『二十世紀は兒童中心の世界なり』と唱破した女流教育家エレン・ケイの言の如く現代は教育、特に兒童の教育によつて平和の理想世界を實現しようとするのである。

最初に考へねばならぬ事は、教育の國家社會に及ぼす偉力である。人類の歴史を五千年として原始時代より四千九百年間の歴史と、最近百年間の歴史とを比較

して見ると、十九世紀より廿世紀に亘る百年間がそれ以前の四千九百年間より遙に著るしい進歩をして居るこの事實は、如何なる原因によるかと云へば、一言にして文明國に於ける普通教育の發達の結果であると斷言する事が出来る。

西洋に於てはルーソーによつて唱導せられた幼年教育即ち六歳以上の兒童教育の理想がベスタロツチによつて實現し始めたのであるが、我國が東洋に於ては印度、支那、朝鮮より後進の國であつたにも關らず、現今東洋に於ける最も進歩せる國家であるばかりでなく、世界一等國の名を贏ち得るに至つたのも、過去六十年間に國民上下を擧げて國民教育の普及に努力して、ある程度までの成功をした結果であると言はねばならぬ。

普通教育に次いで高調せられたのは専門教育、大學教育であつた。然るに小學校を卒へて後の中等教育の如き殆んど専門學校及大學への豫備教育と考へらるるに至り、國民擧つて高等教育に熱中した結果として、就職難に喘ぐ多數の専門學

校卒業生を出すまでに至つたのであるが、今日までの社會進歩に専門教育の貢献した事は實に著るしいものであつた。

此の點に於て最も閑却されたのは農村教育であつた。社會のあらゆる方面に専門教育卒業生が活躍して目覺ましい發展を遂げつつある間に立つて、農村の居住者として高等専門教育を受けたるものは、百人中僅に〇・四と云ふ哀れな状態を出ないのであつて、農村疲弊の根源に此の重大事を見通す譯にはゆかない。此處にいち早く着眼して宗教的精神を基礎として農村の青年男女の高等教育に絶大の努力を拂ひ、遂に世界第一の成功を見たのは丁抹の農村教育である。

第三節 農村の幼児教育

幼児教育の大切な事が明になつたのは極めて近年の事柄であるが、基督教に於ては千九百年前の昔イエスによつて、驚くばかり幼児教育が高調せられた。マタイ傳十八章を見ると

「その時弟子たち、イエスに來りて言ふ『しからは天國に於ては大なるは誰か』イエス幼兒を呼び、彼等の中に置きて言ひ給ふ、『まことに汝等に告ぐ、もし汝ら翻りて幼兒の如くならずば天國に入る事を得じ、されば誰にても此の幼兒の如く己を卑うするものはこれ天國にて大なる者なり。』(マタイ傳十八章一節―四節)と。世界に於て幼児教育に新紀元を開いたものは普通教育の鼻祖ベスタロツチの弟子たるフレーベルであつて、彼によつて百年程前に三歳より六歳までの幼兒を教育する幼稚園が開かれた。之れが世界最初の幼児教育機關であつて順次世界的發展を遂げたのである。更に廿世紀になつて、伊太利のモンテッソーリ女史や北米のゼエームス博士によつて嬰兒教育が唱導さるるに至つた。

而し以上の幼児教育機關も殆ど都會のものであつて、農村にはその恩澤が及んでゐない。勿論農村に於ても幼児教育は極めて大切なのである。

如何にして農村の幼児教育を實施するかと云へば、幸に農村は空氣も新鮮であ

り日光もよく照すから健康指導所に幼児教育設備を施し、衛生保健保育の知識と経験を有する信仰篤き指導者をして献身これに當らしめ、更に農繁託兒所を併設して村民の便宜を計るならば將來の理想的農村社會を建設すべき素材を立派に成長させる事が出来るであらう。

第四節 農村の少年教育

農村の少年教育は將來の農村死活問題を決する重大な問題である。北米に於ける「四Hクラブ運動」即ち少年少女を中心とせる科學的農村振興運動は農村少年教育の重要性に目覺めて起つた最適例と云ふ事が出来る。

此の運動を起したオトウエル氏は小學校一、二年生即七八歳の子供に將來農村に留つて農民となる希望者を書かせた處が百人中に十五人を得たのに、十四歳の少年に書かせた處が百人中僅に二名に過ぎなかつた。この事實に驚いて、この儘の勢を以つて進むならば、北米の農村は滅亡の外はない。農村の滅亡は同時に國

家の滅亡である。何故ならば北米に於ては工業生産の九割まで國內消費である故に農村を失つた國家は立ち行く筈がない。之れは由々しき大事であると悟つて、十歳より二十歳までの少年少女に極めて合理的科學的の農業教育を土臺とした全人教育を施し、今日は六百萬人以上の會員を有する大運動となり、將來この運動が北米の農村を救ひ、遂に國家を救ふであらうと期待されるに至つたのである。

以上の様に、現在農村の少年少女が農村生活を厭ふてゐるやうでは、如何なる農村教育運動も將來甚だ心細いと云はざるを得ない。然るに我國現在の農村少年少女はオトウエル氏の調査と等しく、出來得れば農村を去つて都會に住みたいと考へてゐるものが恐らく百人中九十七八人を數へるであらう。

之れは無理ならぬ事である。何となれば現在の農村教育が主として都市教育の模倣であつて、一切都市中心の社會情勢が農村の少年少女を驅つて農村を厭ひ、都市に憧れしむる原因となるのである。今日の此の誤まれる對農觀念を一掃し農村

の如何に興味有るものかを理解せしむる新らしき精神を芽生えしめる事が急務である。それには眞實の意味に於ける樂しき労働の體驗と習性を少女時代より躰けるに限る。此の點に於て丁抹の農村少女の教育は模範とするに足ると信ずる。同國に於ける農村小學校では、校長夫妻が責任者となつて少女少女達が協力共同して經營する模範農園がある。校長は單に知識を授けるだけでなく、家禽家畜の飼育及びその加工併に農村に必要な農業經營を實地に指導教育をするのである。かく農村の少年少女が小學校時代に於て、教育と農業の混然融合一致せる訓練を受け、農村人も其處に重點を置いて熱心に學校と協力する處に、模範農村の建設さるる根源が存するのである。

今日我國農村の小學校教師中何人かよく農村の指導者として實際上に役立つ教育をなし得るであらうか。再三猛省すべき點であると思はれる。

第五節 農村青年の教育

我國農村の青年を如何にして眞實の意味に於ける高等教育を受け得べきか、農村の興廢は懸つて此の一點に存するのである。

丁抹に於ける國民高等學校こそ此の好模範と言ふべきであらう。而して丁抹の農村青年男女に學ぶべきは國民高等學校に入校する前の約四年間を如何に過してゐるかと言ふ事である。

丁抹農村に於て我等の目に不思議と思はるる事は、殆ど例外なしに、同國農家に於ては十四歳より十八歳位までの約四年間を男女共に他人の家に奉公に行かせる事である。而も自分の家よりは富の程度の低い家に奉仕させるのである。何故ならば父母の家よりは、子供達の將來持つ家庭は収入に於て遙かに少額であるから、父母の家よりは身分の高い家に見習に行つたのでは眞實の見習にはならない。この點は我國民の最も反省を要する所である。如何に丁抹の農民が堅實なる思想の所有者で、且つ實際的であるかを學ばねばならぬ。我國に於ては親も子

も徒に身分の高級生活を欲して、虚榮心の満足を求めてゐるが、かゝる農村生活を害する不健全なる精神は大いに排斥せねばならぬ。

丁抹農村の青年男女は、十四歳より十八歳に至る身心の迅速なる發達を遂ぐる此の好時期に、他人の農家に奉公して、農業上の鍛練を受け、且つ農村社會生活の美風を學ぶのである。かくて四年間の勤勞によつて得たる報酬を以つて、最も尊敬する校長を擇んで國民高等學校に入學し、その校内で五ヶ月間校長と寢食を共にして、徹底的の薰陶感化を受け、神を愛し、隣人を愛し、祖國を愛し、土を愛する高級理想に燃され、且つ深き教養を積んで、新たに生れた信仰を持つて歸家するのである。更に其の上に男子は農學校に學び、女子は家政學校に入り、兩者共に實際的の知識と技能を磨いて家に歸り、長年授けられた教能を根底として、地上を神の國とする大いなる宗教的理想を實現すべく、家畜を飼ひ、土を耕し、神を禮拜し、隣人に奉仕して、人生生活上最も恵まれたる理想の農村生活を營むに至つたのである。

を營むに至つたのである。

最近我國の農林省が、文部省の都市中心の劃一主義の教育に基づかずして、各府縣に農民道場を創設しつつあるは、時勢の要求に應じて起てる昔時の村塾教育の復興ともみられるが、丁抹國民高等學校の農村教育に學ぶ處多大なるを裏書するものと云ふ事が出來よう。

第六節 農村の成人教育

我國に於ける教育上の最大の缺點は、教育即ち學校と云ふ者が社會の通念となつて居る事で、その結果學校を卒業すれば教育は卒つた様に考へ、その後引續いて研究するものは甚だ稀である。此の點は大學の卒業生と雖も専門の學者以外に生涯學問するものは極めて少數である。況や農村に於ては僅に小學校補習學校程度の教育であり、且つ勞働に努力する結果として身體の疲勞は精神の活動を鈍らせて、知識の發達に妨げとなる場合が少なくない。その上精神上の刺戟が少ない

ため、農村人の知識は益々後れ勝ちとなつて來るのである。

茲に於て肉體の糧が生涯必要であるが如く、精神上の糧である教育も生涯必要である事を知り、具體的方法を以つて成人教育に貢献して、農村人の智見視野を擴大向上させる事は個人にとり家庭にとり極めて大切であるばかりでなく、農村全體の發達のために缺く可らざる事である。

此の點に於ても丁抹の農村成人教育運動は我國農村にとつても好模範と云ふ事が出来る。丁抹人の人生觀は我國民と異り、人間七十歳に至るまで教育を受けるものとし、その年齢に應じ時代々に發達の目標を定めて、成人教育に一生懸命努力する結果として、驚くべき發達を遂げてゐるのである。例へばその目標は二十歳迄に身體の均齊美の發達を計り、三十歳迄に體重が完成して壯健美となり、四十歳迄に經驗が充實して賢人となり、五十歳迄に社會的方面の充實を得て富裕人となり、この時代迄に人の子としての完全を期し、七十歳迄に靈性の完全を期

して、神の子の全き資格を備へ。天國に入る準備を完うすると云ふ。個人々々が七十歳迄必ず生きて修養に努め、人間としての完成を遂げようとする處に、成人教育の目標が掲げられてゐるのであつて、全國民の教育の驚くべき發達を見る事が出来るのである。

第七節 農村の社會教育施設

農村社會教育施設は以上三節以下に述べた幼児、少年、青年、成人諸教育を實施すべき中心機關として村の中央に會館を設け、第一に圖書室を設置して堅實なる内容を有する各種の圖書を出來得るだけ蒐集し、村民の縦覽に供する。尙、會館に於いては母姉のために、幼児の保健、衛生、育兒、榮養、娛樂等に亘る講演會、映畫會等を開き、進んでは良書の解説より讀書を推奨する様にし、少年少女に對してはお囃話會、遊戲會、講話會、登山會等を催し、青年に對しては郷土史、郷土偉傳より老篤農家傳を初め現代農村に必要な宗教、教育、文藝、生産、加工、

消費等一切に亘る良書に就いての講解講演會、その他、體操會、音樂會、運動會、視察團體旅行等を催し、更に成人に對しては、家庭問題、生産、消費、互助、共濟諸組合等に亘る啓蒙講演並に素人農村劇の上演、農業實際指導等をなし、農村開發改善の原動力を此の會館を中心として養へば有効なる社會教育施設の實を擧げる事が出来るであらうと思ふ。

第六章 農村の教會

第一節 農村教會の特質

現代我國に於ける都市の基督教會は大小の別こそあれ、俸給生活者、學生などの、(實業家でも)時間と生活に餘裕があつて、日曜日に教會に集り得る程度の者によつて、一定の禮拜集會が營まれ、經營の方針も會員の月次献金によつて支持されてゐるのである。

然るに農村に於ては全く事情を異にし、農村には日曜日に休める俸給生活者と云ふものは殆どなく、勿論學生も居ない。且つ農家収入が一年に數度と云ふ僅かの回数に過ぎないから、月次献金は勿論禮拜献金を献げる事も出来ない。

都市にある教會に農村の信者が出席する場合には禮拜献金である。僅かな禮拜献金に事を缺き不況以來農村信徒の都市教會への出席が激減してゐる事實を見ても明である。それがため農村地帯の教會では禮拜献金は殆んど行つてゐない。そののみならず殆んど農村教會に於ては有産階級を除いては勿論月次献金も出来ない有様で、僅に米や繭によつて収入を得た時に献金するか、物納するに過ぎないのである。

かゝる情態であるから、農村教會の特質として、都會の如く會員の月次献金によつて教會を支持する事は殆ど不可能であつて、結局自給教會として建設する外に、永遠性を帯びた教會を樹立する事は出来ない。その自給も將來は知らず現在

に於ては牧師自らの自給を主としなければ、多くの教會を創立する事はむづかしい。茲に於て農村教會の組織が、都市と全く異なつた特質を持たねばならぬ譯である。牧師が如何にして自給傳道するかと云ふ事になれば、又種々の方法が講ぜられるであらう。パウロは天幕を造つて都市傳道をしたが我國現在基督教團體の資力を以つては最少限度の土地と資本とによつて農村牧師は農村に定住して農業によつて自給の道を講じ、信徒との協力によつて農村教會の創立に當らねばならぬ。それは唯に自給と云ふに止まらず、農村傳道を生涯の目的とするものは、何よりも先に農村を知らねばならぬ。農村を知るには農業生活をしなければならぬ。かくしてこそ農村人と共に泣き共に喜ぶことが出来る譯で、この體驗こそ農村傳道者にとり、最も大切なる基礎條件と云はねばならぬ。丁抹農村教會の牧師が同國中農一戸相當即ち十五六町歩内外の畑を耕しつつ（傭人を使ふとは云へ）教會傳道に當つて一村の中樞となつてゐることなど大に參考とすべきである。

併し日本に於ける自給農村傳道者程荆の途を辿らねばならぬものはない。全基督教歴史の裡に於ても稀れなる苦難の徑であつて、宣教師の如き、あらゆる困難をなめても生活の保證は傳道會社によつて確保されてゐるものが多いのに、専門の農業家は空前の不況に喘いでゐる眞直中へ飛込んで、農業によつて自給しつつ、しかも農村開拓傳道を致すのであるから、過去の基督教が未だ曾て經驗しない處女地の開拓傳道であつて、困難此の上もない働場である。併し地上に神の國を建設する爲めに、如何に困難とは云へ、人類の六七割を占むる農村傳道を閉却してゐて永久に神の國は到來しないのである。

此の空前の困難に際し十字架を前に立てて、イエスは、「我に従へ」と仰せ給ふ。動なくして贖はれ救はれたる我等、この困難を前に踵を廻して主に「汝何處に行くか」と問はれれば如何にすべき、「主よ、我此處にあり我を遣し給へ」と召に應じて起ち上るべき時ではないか。國民生活の支持者として惱みに惱みを重ね

て、愛の救を叫んでゐる農村の兄弟姉妹達よ、奮起せよ、農村に十字架を立てよ、而して自ら犠牲となつて農村自給教會建設の礎となり、其の上に眞の神の國を建設せねばならぬ。

第二節 農村教會禮拜のプログラム

(一) 禮拜の時 農村教會禮拜のプログラムに就いて最初問題となるのは日曜集會の時間である。既設農村教會に於て聖日嚴守の初代の風習に従つて日曜の朝拜を守つてゐる處も多少見受けるが、大體に於て農村教會の禮拜は夕拜を主とする様になつてゐる。それは都會の如く日曜休業の職業は農村には絶對になく、特に信徒求道者の多數が青年男女である場合には公の村の祭日を除くの外は晝は働き、夜の休養の時間を利用して教會の禮拜に集まるより他に時間は與へられてゐないのである。都會に於ては夜の集會は出来るだけ早く切り上げなければならぬが、農村に於ては夜のみがゆつくりした氣持で居られる時であるから、夕拜は寛いで

行ふ事が出来る。但し禮拜の儀式を複雑に長くする事は禁物で、疲れた身體には禮拜の氣分を失はざる限り單純なるを要する。併し説教は都會の信徒の疲れたる頭腦には出來得る限り短かいのを喜ぶ傾向があるが、農村教會にては話をさく機會が少なく、精神的の刺戟が乏しいから、興味を惹きつゝ一時間程度の説教をする必要がある。そして禮拜後更に一時間位に亘り、冬は爐や火鉢を圍んで、夏でも農繁期以外は相當の時間を牧師並に信徒相互の交りや様々の相談に用ふる事が極めて必要である。

(二) 宗教音樂 農村教會の禮拜に於て特に力を用ひねばならぬもの、一つは音樂である。オルガンが備へてあつても、充分に彈奏出来る信徒の居る教會は極めて少ない。そこで傳道者自身が聖歌の適當なものを擇んで自ら指導する必要がある。音樂に恵まれない農村人特に青年男女にとつて、聖歌を覺えて禮拜の時ばかりでなく、野や山に於て自由に歌ひ得る事は、如何に多くの慰安となり獎勵となり又

傳道の機會を作るか分らない。特に勤勞の讚美歌は彼等の最も喜ぶ處のものである。

(三)説教は聖書の根本眞理を出來得るだけ平易簡明に、且つ資料は農村生活や農村産業に關するものを選ぶことは福音の眞理を具體的に悟らせる上に大なる効果がある。

第三節 農村家庭集會のプログラム

農村に於ける家庭集會の時期は殆んど冬春の候に限られてゐると云うて差支ない。夏秋に於ける農繁期には家庭集會は絶対に開けず、若し開いても集まるものは殆んど皆無である。農村に於ける家庭集會は地方によつて多少の相異はあるが大體座敷で火鉢を中心に坐るか、或は炬燵や爐を圍んでの集會で、漬物を茶菓子代用にして、茶を飲みながら集まるのであるから、會衆の氣持も知り合ひ同志の温かい親みを以て交はり、誠に長閑な恵まれたるもので、集會のプログラムも司會者

なども特別になく牧師自身が聖歌を擇び、歌を導き、和やかな聖書講義風な教話をなし、數名の兄弟達が祈つて會を閉ぢ、引續いて質問もあり、相談もあり傳道の打ち合せや信徒の交りを重ねるのである。

家庭集會の案内の如きも家から家に訪問をして、集めてゆくと云ふやり方で、會堂のない地方では禮拜と家庭集會とプログラムに何等大した相異はないのである。定住牧師の居らぬ處では、牧師が信者求道者の家を順次宿泊しつゝ廻るので、之れが家庭との親しみを深くすると同時に、牧者としてよき指導の出來る時で個人的の消息に觸れ、家族一人々々の親切な世話もなし得る絶好の機會である。

第四節 農村傳道のプログラム

農村に於ける大衆傳道はその場所を得ることに困難する事が少くないが、會堂があるか、又は適當な場所を興へられ、適當の時期を擇べば非常に効を奏する事

がある。天幕傳道で、樂隊入りで、少し華やかな裝飾でもして賑やかにやると、農村では人を集める事は割合にむづかしくない。併し大體に於て農村の傳道は個人的傳道に於て堅實なる成績を擧げる事が出来る。唯個人傳道に一番不便を感じるのは農繁期である。訪問しても家庭はガラ明で誰も家には居らぬ。かかる時には田畑まで出かけて行つて、勞をねぎらい、仕事の邪魔にならぬ程度の會話を交はして辭するのであるが、農繁期だからと云つて全然顧みないのはよろしくない。農村傳道に於ても最も不利なのは此の農繁期五六ヶ月の集會中絶である。折角培はれた信仰も、この期間に相當冷えて初冬集會の初まる時に再び努力して培はなければ元の状態にまで引返す事が出来ない。

併し信仰の友を持つてゐる場合には、勤勞中にも時々語り合ひ、祈り合つて割合に信仰を養ひつゝある事も少なくない。それ故信仰には同信の友が何人でも必要であるが、農村傳道に於て特に其の必要を痛感する次第である。

第五節 農村日曜學校の開設

基督教傳道の端緒は都會に於ても、先づ日曜學校を開き子供の傳道より始めるのを第一着とするのであるが、保守的な農村に於て傳道を開拓するには何よりも先に、農村の子供達を對象とした日曜學校を開かねばならぬ。子供は珍しい事には何でも興味を惹くのであるが、特に刺戟の少ない農村に於ては日曜學校が開かれ樂器を以て日曜學校讚美歌を教へ、紙芝居や聖句説き明しの繪畫などを用ひて教話をなし、聖句を教へ祈をなし、時々聖書と噺話會などを催せば必ず子供は喜んで集まつてくる。そして子供を通して、彼等の兄や姉を誘ひ、日曜學校に村の青年男女が出入する様になれば、又彼等を通して成人の傳道にまで手を延ばす事が出来るやうになる。

唯農村日曜學校の開設に當つて、都市と違つて多くの教師を得る事がむづかしい。多くと云はず少數でも中中教師を與へらる事は困難であるから、多數の農村

日曜學校でやつてゐるやうに、一人の教師が歌の指導も教話も管理も一切やらなければならぬので、初めからその決心覺悟が必要である。そして最初は必ず相當多數の子供が集まるがそのうちに段々減少して極めて少數に至るのを常とする。併し決して失望してはいけない。一度日曜學校へ集つたものは、知らず知らずの間に日曜學校の紹介をしてゐるのであつて農民に日曜學校の存在を知らしむる大切な役目を果して居るのである。そして後に残つた少數の生徒が實質的に永續性のあるもので、この少數の生徒をシツカリとらへて堅く結ばるる事により將來農村教會の柱石となるものが與へられるのである。

そして農村祭日を選んで特別の集會を營み、日曜學校生徒を中心とした催に生徒の父兄や母姉を招く様にし、更に基督教の祭即ち復活祭、母の日、花の日、クリスマス等には出來得るだけ多數の村人を招いて、基督教の氣風を味はしめる様にしてゆくことが大切である。村人は特に祭を好むから、之れをよく指導利用す

る必要がある。

第六節 農村福音學校の開設

農村教化の根本的精神及勢力は農村中堅青年を養成する事によつてのみ培はれる。基督教農村文明を實現するには、農村中堅青年に此の理想實現の燃ゆるが如き信仰と、それを現實化し得る實力を養はねばならぬが、その實行方法としては農村福音學校の開設に優るものはない。

一度亡國に瀕した丁抹が國民高等學校によれる農村青年男女の特殊教育によつて五十年間に、世界第一の農村文明を發揚し得たる事は前章に述べた通りであるが、其國民高等學校の先驅運動として、農村福音學校の開設は急務中の急務である。我國民は明治維新以來泰西物質文明の模倣及びその攝取にこれ日も足らざる有様で、それを追究して今日に至つたが、西洋文明の根底に基督教信仰の潜在せる事を忘れ、唯只管に表面の機械的文明に眩惑されて、其の移植に努力した結果と

して、その方面の發達は驚くばかりの成績を擧げて來たのであるが、他面に精神的宗教的精神の涵養を閑却した爲めに、今日の如き不安動搖窮りなき社會を出現したのである。

茲に於て此の缺陷を補ふの道は、農村に於ては愛神、愛隣、愛土の信仰的宇宙觀、社會觀、人生觀に立脚した基督の精神を根底とした農閑短期福音學校教育運動こそ唯一の途と言はねばならぬ。

農村福音學校の重要な特異性は信仰と經濟、理想と現實とが從來無關係に近い状態であつたのを根本より改め、精神的方面のみでなく、現實生活の一切を理想實現の道と考へて、經濟組織に於ける生産、消費、販賣購買等を基督の精進に立脚して、兄弟愛、社會愛の實踐的方法として搾取なく争闘なき平和の社會を協同組合運動によつて實現せんとする教育運動である。

第七節 農村社會への奉仕

農村教會が農村社會へ奉仕し得べき様々の事業の内、重要なものを擧ぐれば

- 一、農繁托兒所 農繁期に農家の主婦も勞働戰線に終日参加しなければならなくなる、幼兒の處置に於て最も苦心をせねばならぬ。此の時期に充分保護の行き届かぬ爲めに負傷をしたり又は屢々變死する子供さへ生ずるのである。かゝる際に幼兒を愛し給ふた基督の教に従ひ、幼き子供を母の手より托され保育することになれば母親の喜はこの上もない次第である。最農繁期二三週間、教會堂か或は晴天の鎮守の社などで幼兒を楽しく教育的に遊ばせてやる事は農村社會への最もよき奉仕の一である。

- 二、純潔運動 現今農村の風紀は餘程改りつゝあるが、併し我國に於て基督教以外に眞に力ある純潔運動は起り得ない。何故ならば儒教も佛教も嚴肅なる一夫一婦の貞操觀を有してゐないために、眞の純潔運動の根本が確立してゐない。基督教はマタイ傳十九章四節―六節に

「人を造り給ひしもの、元始より之れを男と女とに造り而して斯る故に人は父母を離れ、その妻に合ひて、二人のもの一體となるべし、さればはや二人にあらず一體なり、この故に神の合せ給ひし者は人これを離すべからず」と云ふ嚴正なる一夫一婦を以て神聖なる家庭を作り、其處に天國の面影を實現せんとするのである。従つて生るる子供も神より教育を托されたものと信じ、萬事子供中心に考へ、より善き次の時代を望んで勵む處に健全にして樂しき家庭が出現するのである。

三、禁酒運動 この運動は實に重大なる意義を有するので、理想の農村を實現せんとするには絶對的に必要なる條件であつて、飲酒の風習が改らざる限り恵まれたる農村は斷じて建設出來ないと思はねばならぬ。農村に於ては過度の勞働をするので、その疲勞を回復し熟睡するために飲酒の効能を信じてゐるものが少なくないが、之れが生理的に根本の間違ひであることを醫學的に確認せしむる事が

必要であり、更に精神的に經濟的に如何に農村の大敵であるかを痛切に感ぜしめ更に有効な飲料を自家製造で用ふる事を教へねばならぬ。例へば鶏舎畜舎などの運動場の日覆に葡萄を作り、その果實より葡萄液を搾り、蜂蜜を混ぜて自家用無精ドロコノ液を作り、夏は清涼飲料水の代りに、梅酒と稱する有効飲料を用ふれば有害なる飲酒に代ふるに、家族團樂の樂しみを加ふる事が出来る。

四、冠婚葬祭の改善 農村に於ける冠婚葬祭は飲食の騒ぎが大部分を占め、徒に費用と時間を空費するので、其の結果は經濟的に各家庭に大打撃を與へる。之れが改善を數度企てても徹底的に實行出来る場合が甚だ少ない。

之れは全然其の様式を換へる事によつて、割合に容易く改善する事が出来る。例へば基督教會で執行するやうに全然飲食を廢して嚴肅な儀式だけ行ひ、然も總ての行事が深い意義あるものとなつて個人も家庭も村全體にも善き感化影響を及ぼすやうにするのである。

冠婚葬祭に於ける儀式で用ふる讚美歌や聖句、祈禱、説教、祝詞、弔詞等は心情より溢れ出づるものは深い印象を與へずにはおかない。若し基督教會で式を擧げないとしても、その新しい様式を用ふれば多年の風習を一變させる事も出来ない事はない事はないと思ふ。

結婚式の費用の如きも組合主義により平素月額を定め十錢なり二十錢なり出資して置いて、一定の組合費によつて擧式する事になれば結婚費に對する心配もなく、式に對する周圍への憚りもなく父兄をして大なる重荷を卸させる事が出来る。

五、慰安娛樂の提供 音樂會を開き映書を觀せ農村劇の上演等により、農村人に慰安と娛樂を與へつゝ廣義の社會教育を實施する事が出来る。

第八節 農村指導者の養成

農村教會にとり指導者の養成こそ百年の大計の基礎を据ゑる工作であつて、其處に重點を置かねばならぬ。その指導者を二分して一ツは長男の指導教育であり

他は二三男の指導養成とする必要がある。長男は將來の一家の主人となるものであるから、家長となる修養を積まねばならぬ。將來戸主となつて自由に所信を行ふ事が出来る筈であるが、その半面には祖父母、父母等の、古き習慣に染まつてゐる人々の間に伍して理想を實現しやうとするのであるから、その困難は容易なものではない。餘程の確信と實力と忍耐力を養はなければ何時の間にか同じ舊習の囚となつてしまふ危険がある。故に長男の指導には用意周到に而も斷乎たる意志を以て辛抱強く最後の勝利を得なければ止まない。深い信仰的精神を培ひ、將來農村の興廢は懸つて自分達の雙肩にある事を痛感し自重自愛隱忍刻苦して進むやう養成せねばならぬ。

二三男に於て財産も餘り譲られないかわり負債もなく親戚や社會の交際も少ない。茲に於て最少限度の土地と資本とを以つて單純生活を原則として立體農業多角形農業を集約的に營むか、亦は村内開墾地に於ける新生活によつて徹底的に

基督教の理想を實現し得る様訓練を與へる必要がある。

而して指導者養成と共に指導者の半身となるべき若き婦人の養成にも努力し基督教の理想を實現し得る様な好適なる配偶者の斡旋にも盡さねばならぬ。かかる指導者は平素は教會に於て、農閑期には福音學校に於て養成し更に進んでは、近く設立さるべき農村文化研究所に於て徹底的に養成をする必要があると信ずるのである。

註一。京都府何鹿郡物部村宇白道路では公會堂で一年に數回村費で演劇、映畫、神樂、萬歳等を致し全村民に慰安を與へてゐる。

註二。静岡縣田方郡久連國民高等學校は、我國に於ける唯一の基督教主義による丁抹式國民高等學校で福音學校出身者の入學に最も適したる農村塾である。

後 篇

農村福音學校

前編第五章に述べたる如く、我國に於ける各階級の教育程度を比較して見て、農村教育程不公平なる低い程度に放置されてゐるものはないのである。現代の社會は昔時と異り、萬事國際關係が緊密となり、僻村に住む一農民と雖も國際經濟の影響を免れる事は出来ない状態に置かれてある。かかる時代に於て現在の如き農村の教育程度では農村生活の向上發展を充分に遂げる事はむづかしい。殊に農村文化の程度を都會と同様に高めるが如き事は不可能である。農村不況の根本も農村教育の不徹底より來る人材の拂底、人物飢饉が最大原因となつて居るのである。この人物飢饉を救ひ、農村文化の程度を高め、農村文化實現の根底を築かん

とする使命を以つて農村福音學校運動は勃興し來つたのである。

農村福音學校は其の範を丁抹の國民高等學校に取つたものである。七十年前疲弊困憊殆んど亡國的狀態にまで陥つた丁抹の農村を救ふのみならず、進んで世界最高の農村文明を發揮し都市より總ての點に於て農村文化の程度が高くなり、全世界より羨望の的となつてゐる丁抹の農村を建設したものはグランドリツヒによつて唱導された同國の國民高等學校である。

我國基督敎界の運動として新に勃興した全國約百二十校の農村福音學校は、丁抹國民高等學校の精神に立脚し、地上に神の國を建設する目的を以つて、先づ神を愛し、隣人を愛し、祖國を愛し、土を愛する宗教的信念に立つて、農村青年男女の卑屈狹少なる人生觀を一變して、神の國實現の使命觀に燃えしめ、隣人愛、祖國愛の根本を基督の犠牲的精神贖罪愛に求めしめ、その基礎を土を愛する心に据ゑ其處より眞の輝ける農村文化を發揮しようとする事を主眼としてゐる。

第一章 農村福音學校の經營

第一節 農村福音學校の方針

農村福音學校は主として農閑期に開校するもので、而も期日は一週間乃至十日間、長くも一ヶ月、二ヶ月以上に出づるものは稀である。かかる短期間の教育運動であるから、教師と生徒との人格的接觸を第一とし、個人の魂と魂との靈交感化を以つて教育の眼目としなければ効果が少ない。そのため生徒の人員を制限する必要がある。多くても廿名を出でない様にしないと人格的感化が稀薄になる。且つ短時日の内に宗教的感化を及ぼすには會場並に主催者側に既に宗教的雰圍氣の準備されてゐる處が最も効果が多い。併し如何に効果があつたとしても短時日の教育では新精神に觸れしめ、農村生活の將來に希望を懷かしめ、眞に農村更生のため奮起する氣魄を養ふ程度であつて、更に其の上の國民高等學校式の教

育に其の完成を待たねばならぬ事を考慮して置かねばならぬ。

以下農村福音學校開校に對する實際上の方針を述べると、

第一、主催者側に農村救済並に農村傳道に對する燃ゆるが如き、而も底力のあ
る熱意の存する事が第一條件である。從來開校せる主催者側を列擧して見ると、
神の國運動主催のもの、文書傳道機關新生館主催のもの、各派部會主催のもの、
地方教會聯合主催のもの、單獨教會主催のもの、個人主催のもの、と大體六種に分
類する事が出来る。昭和五年以前の福音學校は各派單獨教會又は個人主催のもの
が大部分であつたが、昭和六年春より神の國運動主催のものが全國的に開校さ
れ、此の運動に拍車を掛けた觀を呈したのである。其れと相呼應して各派主催の
ものも多數開校せられるに至つたのである。神の國運動主催のものは最初全國を
五大地方別にした爲に、生徒募集區域は擴大され、例へば第一回、仙臺に開かれ
た福音學校の如き東北六縣内より青年が集つて來たのである。而して初めて、か

かる福音學校に來つて學んだ青年達が、非常なる感激に満たされて自分の村に歸
り自村單位の福音學校を開校し、年々繼續して著るしき効果を上げ、それが成長
して遂に永久的施設にならんとしてゐるものもある位である。

神の國運動も昭和九年を以つて一段落を告げたので、今後は地方諸教會聯合の
もの及び、單獨主催のものが多くなるのであらう。從來の農村福音學校は外來の應
援講師を中心として開校したのであるが、既に各地に於て相當の經驗を重ねて居
る現在では、寧ろ外來講師の應援を主とせず、地方主催者側が主となつて外來講
師を迎へずとも開校し得るに至る事を切望する次第である。農村福音學校教科書
の如きもかかる企ての一助となる様に編纂したのである。

第二節 農村福音學校のプログラム

農村福音學校のプログラムも主催者側の方針及會場期間等によつて、それに適
切なるものを作らねばならぬが、根本原則、指導精神は共通である。總ての會合

を通じて讚美歌又は農民歌を歌ひ聖書を讀み、祈禱を捧げ、敬虔なる宗教的精神が常に横溢してゐなければならぬ。同時に生徒と教師及び生徒と生徒との親密なる個人的接觸を以つて終始する様にならねばならぬ。以下二日間、三日間、五日間、七日間、十四日間、一ヶ月間、二ヶ月間及び女子福音學校等の代表的實例を示せば左の如くである。

二日間例

今回本邦デンマーク研究の權威興農學園長を中心に専らデンマークに關する研究、勉學の爲め左の如く第二回農民福音學校を開校いたします。短期ではあります、この農村非常時に理想農業國デンマークを學び、その農民精神に觸れ得る事はこの上なき幸であります。又適切、必須の事と確信し是非とも御來校あらん事を奨め致します。

昭和七年八月一日

主催 神の國運動仙臺地方委員會

利府バプテスト傳道所

第二回利府農民福音學校 校長 同 所 教會 牧 師

幹事 同 所 幹 事

第二回利府農民福音學校入學案内

日時 昭和七年八月二十日(土)午後二時ヨリ八月二十一日(日)午後九時マデ

場所 宮城縣利府村利府バプテスト傳道所

定員 正科生 二十名、聽講生 二十名

會費 金貳拾錢也 聽講生は一日拾錢納ムルコト

食費 米二升

宿泊 正科生ノ爲メ宿泊ノ用意アリ

農村福音學校の經營

農村福音學校

申込 申込到着順ニ受付ケ定員ニ充ツレバ締切ル

申込場所ハ鹽釜町仁井町バプテスト教會内

第二回利府農民福音學校プログラム

八月二十日(土)午後二時—三時 開校式

司會

獎勵

神の國運動地方委員長

同 午後三時—五時

デンマークの農村經營

興農學園長

同 午後五時—七時 炊事、夕食、入浴

同 七時—八時

デンマーク體操に就いて

同 上

同 午後八時—九時半

デンマーク事情座談會

同 上

八月二十一日(日)午前四時起床 炊事、夕食、入浴

同 午前五時—六時 デンマーク體操

同 午前六時—七時 朝食

同 午前七時 出發 鹽釜へ

同 午前八時半—十時

デンマークの農民生活

同 上

同 午前十時—十一時

禮拜「農本主義の基調」

校 長

同 午前十一時—零時半

「デンマーク國民高等學校に就いて」

興農學園長

同 零時半—三時 晝食 プール行き 休憩

農村福音學校の經營

農村福音學校

同 午後三時—五時

農家經營の理論と實際

宮城縣農會技師

同 午後五時—七時 炊事 夕食 入浴

同 午後七時—八時 感想會

同 午後八時—九時半

夕拜 デンマーク農民の宗教生活

興農學園長

解散 (同夜も宿泊の用意あり)

八月二十一日 午後三時より 一般講演會 利府小學校講堂に於て

「デンマーク農民の生活」

同 上

主催 利府バプテスト傳道所

利府村青年團

後援 利府村農會

第二回利府農民福音學校入學申込書

姓名	住所	年	月	日(職業)
----	----	---	---	-------

私事第二回利府農村福音學校 正科 申込候也 聴講

昭和七年八月 日 右 本人

三日例

長野部農村傳道特別委員緊急報告

農村福音塾に就いて

長野部農村傳道特別委員は長野部内農村の特別情勢と、部内農村傳道積年の經驗とに基づき大要左の如き農村福音塾計畫を樹立しました。各教區主任者はこの際至急各自傳道地に於ける福音塾計畫を立てられ當委員にまで御通告下さい。補助

農村福音學校の經營

關係もあること故所定期日に遅れぬやうにお計ひ下さる。

昭和九年十一月六日

委員長
書記

一、農村塾の目的

塾長(教區主任者)を中心として農村青年男女に基督教の信念に基き人格主義的訓練を得しむるを目的とする。

二、一教區一塾主義

「部内全教區に福音塾の散兵線を敷け」

昨年は經濟的其の他の理由により、全教區漏れなく福音塾を開設するための積極的援助が達成されず、自發的に開催せるもののみを援助したに過ぎなかつた。本年は一教區一塾主義の下に適當の援助を惜しまぬ用意がある。尙經濟的に許されれば、地方的農村塾修了者を收容訓練する高等農村塾設置の計畫も進めたい意

向と用意をも有つ。

三、自給自足主義

「各福音塾は自給自足を原則とする。」昨年の經驗によれば各福音塾は完全に經濟的に自給自足し得ることを立證した。(別紙實例を参照されたい)猶今年は全教區内に一教區一塾主義を敷く關係上自給困難の向には委員に於て御相談に預る道を開く事とした。實狀を示して御申越にあづかりたい。

四、講師

塾長を援助する爲め、委員より適當なる講師の派遣の相談に應ずる。講師は主として部内内外人教師傳道師を當用する方針である。

五、開催期日希望

一月二十日―二月十五日。特に此の期日を選ぶ理由。

(イ)東部年會農傳協議會が一月十五、十六、十七、の三日間開催するを以てそ

れ以後たることが望ましむ。
(ロ)二月下旬に高等農村塾開催の運びとなることあるべきを以て、それ以前たることを要す。

六、課目

- (一)修養 (イ)禮拜 (ロ)祈禱會 (ハ)宗教講話 (ニ)信仰座談會
- (二)基督教 (イ)基督教神學綱要 (ロ)基督教倫理 (ハ)日本基督教史 (ニ)新約書研究
- (三)宗教 (イ)宗教學 (ロ)宗教哲學 (ハ)宗教文學 (ニ)宗教美術 (ホ)宗教教育 (ヘ)宗教と自然科學
- (四)農村文化 (イ)日本農民史 (ロ)農村社會學 (ハ)農村經濟 (ニ)農民心理 (ホ)農村衛生 (ヘ)農村行政
- (五)特種講演 (一)禁酒講演 (二)デンマークに關する講演 (三)性問題

- (四)近代の結婚問題 (五)農村生活美化問題
- (六)女子特別科目 (一)料理 (二)手藝 (三)衛生育兒 (四)農村娛樂 (五)生活美化研究

以上は大體の標準である。この中から地方的情勢に従つて適當なものを選んで頂き度い。更にこれに他の科目を加ふることも自由である。

四 日 例

第二回津輕農民福音學校要項

「明るき農村」「住みよき農村」これ諸君農村青年に與へられたる天の約束である。さは曰へ右にはファッショの矢叫びを聞き左にはコンミニストの尖鋭化を見、然も其の内面には幾多の恐慌と苦惱が絶えざる暴風を含んでゐる農村の實相を考ふる時、單なる自力更生の規約制度にとどまらず其の根本精神の改造こそ「明るき農村」「住みよき農村」の基調たる事を痛感するのである。

農村福音學校

此處に津輕農民福音學校は其の第二回を開催し、以つてイエスの贖罪愛の精神もて己が農村を死守せんとする諸君の道場たらしめんとしてゐる。來つて先づ農村社會確立の指導精神を學び斯して其の根本的基礎を把握せられん事を願うてやまなう。

時日 昭和八年二月二十一日(火)午後一時ヨリ同二十四日(金)午後二時マ
デ

會場 南津輕郡藤崎町驛通り藤崎メソヂスト教會堂

資格 男女學力を問はず満十七歳以上(但し正科生定員二十五名)

宿泊 地方出席者の爲めに準備あり(但し三泊四日の全費用白米三升)

聽講 自由、食事の要ある者には食券を配布す(但し一枚五錢)

主催 神の國運動地方委員會

藤崎メソヂスト教會

學科目講師 (順序不同)

後援 基督教聯盟農村傳道部
日本メソヂスト農村傳道部

農村と都市との關係
農村消費經濟問題
農村文明の實現
農村教育の眞髓
基督教聯盟農村傳道部幹事
澁川民衆高等學會長

青年に語る
青森縣社會課長

農村經濟更生
青森縣農務課(縣屬)

農民福音學校の使命
弘前市托兒園長

自家用醬油釀造實習
中部農會技手

日本民族史
東奥義塾長

津輕拓殖史
十三史談會長

農村福音學校の經營

舊約聖書概論

青林市聖公會牧師

イエスの社會的認識

八戸バプテスト教會牧師

題 未 定

メソヂスト奥羽北部長

キリスト教大意

青森メソヂスト教會牧師

題 未 定

五所川原メソヂスト教會牧師

音 樂 主 任

黒石メソヂスト教會牧師

禮 拜 主 任

藤崎メソヂスト教會牧師

農村料理指導

婦人宣教師

津輕農民福音學校の歌

校の目的「基督教精神に於ける農村社會の確立」
校の精神「神を愛せ、人を愛せ、土を愛せ」三愛主義。

一、岩木のみねのそびえたつ

津輕ひろ原空たかく

三、光とやみのゆきかへる

この世のさだめ踏みこえて

我らのゆくてはるる時

大地に立ちて祈りする

若き血しほのもゆるなり

我らの事を君知るや

神をあがめつ人愛し

四、林檎の園によむ聖書

土をたふとべはらからよ

水田に歌ふさんびの譜

二、岩木のながれ瀬をはやみ

はえあるゆくて望みつつ

津輕ひろ原雲たれて

今ぞかかげよ十字の旗

我らのゆく手くらき時

(譜、讚美歌三七七)

祈る思ひのさむるなり

五日間

第二回日田農民福音學校

農村福音學校の經營

主催 日本福音ルーテル日田教會

期日 昭和七年八月三日(水)―八月七日(日)

趣 旨

農村問題は刻下の第一の問題であります。農民の窮狀、農村の没落！それは單に唯物的な理論や、方策で解決されるものではありません。又徒らな觀念的の空論で決定すべきものでもありません。

そこには「強き福音的信仰」と「時代の正確なる認識」と「全身的なる實踐力」とによつて始めて解決されるものであります。

我教會は再び起つて、茲に斯界の權威者を招聘して、今又農民福音學校を開設する次第であります。依つて願はくは「眞に農民」たり「農村開拓者」たることを望む諸君の全身の參加を乞ふ次第であります。

講師と科目

聖書研究 熊本九州學院牧師、ルーテル教會傳道部長

聖書の農本思想 日田農民福音學校長

農村經營論 日田ルーテル教會牧師

農村に於ける組合運動 全國農民組合長、代議士

郷土に於ける農事改良 群馬縣澁川國民高等學校長

農民と政治問題 日田郡農會技師

農村救済の施設に就いて 九州帝大法文學部教授

郷土史中の人物 義民穴井六郎右衛門の事業郷土史家

其他 (體操、音樂、懇談等)

公開講演

八月五日 夜八時 日田町 公會堂

デンマルク農村と宗教 熊本九州學院牧師

農村福音學校

農村救済の二方面

全國農民組合長、代議士

八月六日 夜八時

龜山公園下 於セツルメント

現代思潮と宗教

九州帝國大學教授

募集規定

募集人員 正科生 二十名、聽講生 三十名限り

應募資格 農村に關係ある男女(但し聽講生は此限りに非ず)

申込期日 七月三十日迄受付

開校期間 自八月三日(水)―至七日(日) 五日間

場所 大分縣日田郡日田町龜山公園下 於日田セツルメント

經費 一、會費 正科生 金五十錢(又ハ白米二升)、聽講生 金八十錢

二、宿泊費 (五日分)金一圓五十錢(又ハ白米七升)(割引)、金二

圓五十錢(一食十五錢)(實費)

六日間例

下福田農民福音學校 (昭和七年一月廿五日(月)より
一月三十日(土)まで)

一、會場 千葉縣印旛郡八生村下福田

一、校長 千葉復活教會牧師

一、學科及講師

挨拶 農村社會學・副業問題

千葉縣學務部長

農村偉人傳、組合と消費問題

群馬縣澁川町組合教會牧師

養蜂

國立畜産試驗場技師

草花

千葉縣農會技師

養鶏、病害虫

千葉縣立茂原農學校教授

多收穫法

篤農家

憲法の概念

東京地方裁判所刑事部長判事

農村福音學校の經營

農村福音學校

農村の衛生

修養講話

基督教社會愛史

聖書の讀み方、音樂、體操

山上の垂訓、音樂

千葉醫科大學法學醫學研究生

銚子聖公會牧師

千葉復活教會牧師

茂原聖公會牧師

千葉復活教會牧師

七日間例

長野女子農民福音學校

我が國の農村福音學校と云へば殆んど男子に限られてゐたが、ここに今日の農村改良運動の重大な役割を帯びた農村女子福音學校が本年三月長野市縣町旭幼稚園に於て開校された。これは我國最初の試みで各方面より大きな期待を以て迎へられ、東は群馬、埼玉から、南は信州伊那郡から廿一名の人々が集り希望と感激に満ちたものであつた。

設立の趣旨

農村にある夏季幼稚園のために手傳ふことの出来るやうに、農村指導者となり得る様に、農村のクリスチャンである青年達のよき同伴者となるために。

標語

「神の光もて我村の淨化と幼兒保護のために我が手と心とを捧げ
勞せん」

主催者

日本メソヂスト教會長野教會婦人事業委員、及びカナダ婦人ミツ
シヨン

校長

エラ・レデヤード

期

昭和六年三月二十五日開校—三月三十一日閉校

講師

上田メソヂスト教會牧師

北信中央メソヂスト教會牧師

長野メソヂスト教會牧師

農村福音學校の經營

農村福音學校

須坂教會婦人傳道師

長野後藤病院副院長

長野縣學務課員

幼稚園教師 數名

科 目 宗教、保育、衛生、料理、編物、實用初步洋裁

プログラムは左の通りである。

時	日	内容	時間
七・〇〇 一八・三〇	二十五日 (水)	開校式	一・一〇・四五
八・三〇 一九・〇〇	二十六日 (木)	朝食 禮拜	一・一〇・四五
九・〇〇 一九・四五	二十七日 (金)	朝食 禮拜 創世の話 第二世の話 農業の人 生觀	一・一〇・四五
	二十八日 (土)	朝食 禮拜	
	二十九日 (日)	朝食 禮拜 日曜學校 參觀及び	
	三十日 (月)	朝食 禮拜	
	三十一日 (火)	朝食 禮拜	

七・二〇 一八・〇〇	第一	創世の話	禁酒	大親睦會	農村女子の使命	七・二〇 一八・〇〇
七・〇〇 一七・三〇	練	讚美歌	習歌	禮拜	練	七・〇〇 一七・三〇
五・三〇 一七・〇〇	夕	食	夕	夕	夕	五・三〇 一七・〇〇
四・〇〇 一四・四五	手	藝	お話の仕方	手	編	四・〇〇 一四・四五
三・〇〇 一三・四五	幼	兒教育	幼稚園の歌	病人料理	懇談會	三・〇〇 一三・四五
二・〇〇 一二・四五	役	割	兒童心理	衛生	衛生	二・〇〇 一二・四五
一・二・三〇 一二・〇〇	食	茶話會	畫	畫	畫	一・二・三〇 一二・〇〇
一・一・〇〇 一一・四五	開	校式	編	實用初步洋裁	實用初步洋裁	一・一・〇〇 一一・四五

宿泊は旭幼稚園寄宿舎が提供され、宿泊料は無料として寢具は各自携帯すること、貸布圍は一日十五錢で用意されてゐる。食費は一人白米二升五合味噌二百匁、副食物適宜(野菜漬物等)持参して

農村福音學校の経営

農村福音學校

正午晝食、午後一時—四時學課その他、四時—五時三十分自由入浴、五時三十分—六時三十分夕食、七時—九時學課及懇談、九時半晚睡就寢。

一ヶ月間例

日本農民福音學校

我國農民福音學校の典型的な存在であつて、賀川豊彦氏、杉山元治郎氏の協力により昭和二年二月十一日より一ヶ月間第一回を兵庫縣瓦木村に開催されて以來毎年開校されてゐる。

設立の趣旨 デンマークのグルンドウイッヒの精神に従ひ、人格的教育を施し、農村改造のために十字架を負ひて、突進する戦士を養成す。

會場 兵庫縣兵庫郡瓦木村字高木、一麥寮

校長 杉山元治郎氏

募集人員及學費 十人、但し超過の時は詮衡により採用す。食費は一ヶ月十五

圓にして半額(七圓五十錢)を補助す。

學科 キリスト傳、教會史大要、聖書概論、宗教概論、農社會學、農學大意、自然科學、農村經濟、肥料學、土壤學、農村經營、農村問題、社會思想史其他課外講演

科外講演と講師

動物進化の話

京大教授

政治問題

前代議士

消費組合

日曜世界社長

兒童問題

農村娛樂

星の觀測

宣教師

農業科學

會根教會牧師

農村福音學校の經營

農村福音學校

立體農業

社會進化史

養蜂

社會事業

職業問題

害虫に就いて

農村と女工

米に就いて

社會事業

農村工藝

音樂

農村衛生

武藏野農民福音學校主事

關西學院教授

神戸女子神學校教授

京大教授

大毎記者

農學士

愛染園長

紀南國民高等學校長

岐阜教會牧師

某醫學博士

一ヶ月以上例

第十一回澁川民衆高等學會會員募集

一、本會の目的は丁抹國民高等學校の如く堅き信念の上に立ち我國農村の文化を高め充實せる農村生活を實現せんとするにあり。

二、入會資格、十八歳以上の有爲なる好學の青年は何人も入會する事を得。

三、申込所、澁川町裏宿澁川民衆高等學會長宛

四、本會は自治團體にして本會の幹事及當番委員に依つて事務を行ふものとす。

五、本會の會費は一ヶ月金一圓として薪炭、電燈、應援講師の旅費等に充て毎月二十日會計幹事に納むるものとす。

會期 一月十日(火)ヨリ 三月十日(金)迄 (毎夜六時より八時迄)

科目及講師 基督教社會愛史、兄弟愛史、丁抹研究 會長

農村福音學校の經營

世界文化史、新舊約史、農村社會學

主 事

農村の合理化

鳥取高農出身

作物の遺傳と育種

盛岡高農出身

現代工藝の傾向

東京高農出身

世界 歴史

澁中教諭

音 樂

會長 夫人

應援講師 畜産 加工

縣農會技師

婦 人 問 題

共愛女學校長

科學的農業振興運動

農村の青年主幹

丁 抹 體 操

青山女學院教諭

第二章 農村福音學校の教材

第一節 基督教概要

農村福音學校は文字通り福音學校であつて、徹頭徹尾基督の福音を骨髄とし、血液となし肉體となす教育運動であつて、晨より夕に至る福音學校のプログラムが此の信仰的雰囲気の中に終始しなければならぬ事は當然である。

而して一切の學科目を學ぶに當り、神が人の子に與へ給うたあらゆる智慧と知識と基督の福音とを通して天地萬有に秘められたる神の御經綸と、天地創造の御目的とを悟り、我等も回心して、罪より救はれ神を人類の唯一人の父と信じ、我等も皆神の子にして又兄弟姉妹たることを確信し、基督に従ひ神の國を地上に建設せんとするの決心がなければならぬ。

茲に於て農村福音學校は期間の長短に關らず、先づ基督教の概要及びその眞髓

を教へねばならぬ。併し其の説明は講演時間の多寡によつて其の根本より順次に枝葉に及ぶ様にせねばならぬ。例へば短期福音學校で三日間に三時間だけ基督の福音を説く場合には、「主の祈」を説き、五日間五時間の時には「山上の垂訓」を説いて其の中に「主の祈」も含む様にする。更に七日になればイエス傳を福音書に従つて説き、十日間になれば教會史中に輝く兄弟愛史、社會愛史を説き、更に二週間より一ヶ月二ヶ月に及べば舊約史によるヘブル民族史に至ると云ふ様に説いて行く必要がある。勿論短時間の時でも新約の説明に、その起源となつてゐる舊約を語る事は極めて肝要な事であつて、我國の如き古き歴史を有する國民に基督の福音を講解するには舊約の引例は最も理解を容易ならしめるのである。

第二節 基督教と日曜日

今日世界各國に於ては一週間の初の日即ち日曜日を休日として守つてゐるのであるが、我國もその例に洩れず諸學校、官衙、會社等皆日曜日を休んで居るにも

關らず、何故日曜日を休むのであるか、その起原に就いて明かに日曜休日の意義を知つてゐる者は極めて少數で、諸學校の教師と雖も大部分の者は之れを知らずに唯習慣として休んで居るが、この日曜休日は基督なくして起り得なかつた事柄である。この日曜休日の意味を知る事は極めて大切なことである故に簡単に福音學校生徒のために説明して置く必要がある。

イエスの祖國ユダヤに於ては、世界の創造は天地の主なる神が、日曜日より世界の創造をお始めになり金曜日に至る六日間で漸く完成なし給うた。そこで七日目の土曜日は安息日としてお休みになつた。それ故に神に創造せられた人の子も、この日は仕事を休んで、神の御徳を讚美し御恵みを感謝し神の御意を學び之に従ふために皆國民は會堂に集つて神を禮拜して居るのである。ユダヤ教徒は今日と雖もこの習慣を守つてゐるのである。

然るに基督教に於て何故に日曜日を休日としたのであるかと云ふと、イエス・

キリストが金曜日に十字架に架り給うて次の日曜日の朝復活し給うた。而してこのイエスの復活なくしては今日の基督教と云ふものは始んど起り得ないほど重大な事實となつたのである。イエスが殺されたので失望落膽爲す處を知らなかつた弟子達が、復活の基督に接して非常なる靈力を與へられ、旺んたる信仰的精神に燃されて立上つた。その起原となつたのがこの日曜日であつた。それ故にこの日を主の復活日と稱へて基督の弟子達が土曜日に代へてこの日を、神を禮拜する日と定めたのである。それ故に世界中日曜を休日として守るものは基督の復活を記念して神を禮拜するため設けられたる日である事を知つて、只休日であると云ふだけでなくこの日を信仰的に意義深く守らねばならぬのである。

第三節 主の祈

本文

「天にいます我らの父よ、願くは、御名を崇めさせ給へ。御國を來らせ給へ。御意

の天に成る如く、地にも成させ給へ。我等の日用の糧を今日も與へ給へ。我らに罪を犯す者を我らが免す如く、我らの罪をも免し給へ。我らを嘗試に遇せず、惡より救ひ出し給へ。國と權と榮とは、かぎりなく汝の有なればなり。アーメン。」
 以上この極めて簡單なる基督が弟子に教へ給うた祈の模範と云ふべき「主の祈」の中に基督教福音の精髓は盡く含まれてゐると言うて差支ないほど完全な祈である。茲に基督教の神觀、人生觀、社會觀が網羅されてゐると共に、基督教信徒の日常生活に最も鮮かなる指導精神が示され、この基準に照して自己の實際生活を省る時に、我らの精神が神の御心、即「主の祈」の精神、趣意に適つて居るか否かを直に知る事が出来る。基督教の信仰に従へば先づ第一段に人生の目的は慾望を満たす爲めでもなく、生活の安全を計ることでもなく、唯父なる神の御名を崇むる事を第一としなければならぬ。即ち人間中心の人生でなく神中心の人生でなくてはならぬ事を教へてゐるのである。それも私達が個人として神中心に考へるだ

けでなく凡ての人々と共に神中心の人生を営まねばならぬ事を教へてゐる故に我らの父と祈るのであつて、我が父と祈らないのである。同時にその父なる神は、いと聖く高く廣く大いなる神の御意の限なく行はれて居る天、目に見ゆる天にあらず……即ち人間の考へ得る一番廣大無邊なる天の文字によつてのみ表はし得る處に父なる神は遍在し給ふと信じてこの祈を捧ぐるのである。

人間の心に尊きものを崇むる時ほど立派な精神に満さるる時はない。全智全能至仁至愛の父なる神を崇め尊むその心こそ人間即ち神の子たるものの第一の心がけとせねばならぬ。同時にその心ほど人間を聖く高く尊く大きな神の子らしくするものはない。かかる思ひを凡ての人の子が懷いて父なる神を崇むると共に、第二段には神の御國に完全に神の御心が行はれてゐる様に、神の子の集ひたるこの人間社會にも同様に神の御意が行はれる様にと云ふ祈、即ち地上に神の國を建設させて頂きたいと云ふこの祈ほど人間の心を崇高悠大にしてくれるものはない。

地上を神の國にして頂きたいと云ふ心に一杯になつてゐるのが眞の基督者の心である。第三段に我らの日常の糧を今日も與へ給へ、何と云ふ謙遜なそして温かい祈であらうか。今日も必要なものだけ與へて下さい。私だけでなく兄弟姉妹總てと共に、と云ふ誠にこの上もない優しい心ばえである。現代ほどこの祈の切實なるを覺ゆる時は稀である。この心が萬人の心になれば社會問題は立所に解決されるのである。第四段には我らに罪を犯すものを我らの免したる如く、我らの罪をも免し給へ、私達人の子は何としても神の前に罪の負債を負うてゐる。良心に問ふて神の前に一度も罪の自覺のないと云ふ人はない。如何にしてこの罪を免がる事が出来るか、唯一の道は只神様に赦して頂く外はない。同時に人が自分に犯す罪も自分が免さねばならぬ。赦し赦される。この外に人間が安らかな心をもつて世を過す道はないことをこの祈りが適切に教へてくれる。それは實に基督教の大切な教の一つである。神の寛大と人の寛容が茲に見出される。

最後に我等を嘗試に遇せず、惡より救ひ出し給へ。これは、強さうで弱い人間を知り盡して居られるイエスが極めて深き同情を以つて人の子が試誘に陥らざる様に御誠めになり、神の御守りと御助けを祈る事の如何に大切なるかを教へ給ふた祈である。而して最後の句には世界と、これを治め給ふ權威と一切に現はれたる榮光は總て父なる神に歸し奉る讚榮の心を以て結んである。朝に夕にこの祈を共にする事によつて我も救はれ友も救はれ地上に神の國の來る適切なる道の準備となるのである。

第四節 山上の垂訓

イエスの福音から彼等の建設事業の靈感を得たる英帝國建設の代表者の一人ジヨード・グレー（一八一二—一八九七）は聖者の敬虔と柔和を以て、常に新約聖書を離さなかつた。彼は最も危険なる冒険に於ても、新約聖書を繙き、その中に慰安と奨勵を見出して「山上の垂訓は人類最大の勅許狀である。それはあらゆる

事件に對して最高の智慧を與へる。それは人種の如何に拘らず兄弟として人間を愛する事を教へる」と言つてゐる。この言に同感を表はすものがどれ程あるか分らぬ。故に茲に山上の垂訓を全部轉載する事とする。（ステット、社會愛史賀川氏等譯三九九—四〇〇）

マタイ傳 第五章

イエス群衆を見て、山にのぼり、坐し給へば、弟子たち御許にきたる。イエス口をひらき、教へて言ひたまふ、「幸福なるかな、心の貧しき者。天國はその人のものなり。幸福なるかな、悲しむ者。その人は慰められん。幸福なるかな、柔和なる者。その人は地を嗣がん。幸福なるかな、義に飢え渴く者。その人は飽くことを得ん。幸福なるかな、憐憫ある者。その人憐憫を得ん。幸福なるかな、心の清き者。その人は神を見ん。幸福なるかな、平和ならしむる者。その人は神の子と稱へられん。幸福なるかな、義のために責められたる者。天國はその人のものな

り。我がために、人なんぢらを罵り、また責め、詐りて各様の悪しきことを言ふときは、汝ら幸福なり。喜び喜び、天にて汝らの報は大なり。汝等より前にありし預言者等をも、斯く責めたりき。

汝らは地の鹽なり、鹽もし効力を失はば、何をもてか之に鹽すべき、後は用なし、外にすてられて人に踏まるるのみ。汝らは世の光なり。山の上にある町は隠るることなし。また人は燈火をともして升の下におかず、燈臺の上におく。斯て燈火は家にある凡ての物を照すなり。斯のごとく汝らの光を人の前にかがやかせ。これ人の汝らが善き行爲を見て、天にいます汝らの父を崇めん爲なり。

われ律法また預言者を毀つために來れりと思ふな。毀たんとて來らず、反つて成就せん爲なり。誠に汝らに告ぐ、天地の過ぎ往かぬうちに、律法の一節、一書も廢ることなく、悉とく全うせらるべし。この故にもし此等のいと小き誠命のつをやぶり、且その如く人に教ふる者は、天國にて最小き者と稱へられ、之を行

ひ、かつ人に教ふる者は、天國にて大なる者と稱へらん。我なんぢらに告ぐ、汝らの義、學者・パリサイ人に勝らざば、天國に入ること能はず。

古への人に「殺すなかれ、殺す者は審判にあふべし」と云へることあるを汝等きけり。然れど我は汝らに告ぐ、すべて兄弟を怒る者は、審判にあふべし。また兄弟に對ひて、愚者よといふ者は、衆議にあふべし。また痴者よといふ者は、ゲヘナの火にあふべし。この故に汝もし供物を祭壇にささぐる時、そこに兄弟に怨まるとあるを思ひ出さば、供物を祭壇のまへに遣しおき、先づ往きて、その兄弟と和睦し、然るのち來りて、供物をささげよ。なんぢらを訴ふる者とともに途に在るうちに、早く和解せよ。恐くは、訴ふる者なんぢを審判人にわたし、審判人は下役にわたし、遂になんぢは獄に入れられん。誠に、なんぢに告ぐ、一厘も残りなく償はずば、其處をいづること能はず。

「姦淫するなかれ」と云へることあるを汝等きけり。されど汝らに告ぐ、すべて